

# 特集 麻生区の選挙状況

麻生区における平成25年以降の選挙投票者数をみると、最も多いのは令和3年衆議院議員総選挙で投票率62.59%となっており、次いで平成29年衆議院議員総選挙が58.32%、令和元年参議院議員通常選挙が53.86%の順となっている。

期日前投票に関する数値をみると、全ての選挙で全体の投票数に対する比率が20%を超えており、特に国政選挙になると2万人以上の方々が、期日前投票制度を利用している。

麻生区の投票者数

選挙名	投票者数					投票者総数に対する期日前比	人口	有権者数	投票率
	麻生区役所	柿生分庁舎	不在者 (在外含む)	選挙当日	総数				
平成25年川崎市長選挙※1	10,687	1,270	175	36,259	48,391	24.71%	173,697	135,842	35.62%
平成29年衆議院・川崎市長選挙等※2	27,790	4,952	546	50,983	84,271	38.85%	177,238	144,505	58.32%
平成31年統一地方選挙※3	14,584	2,884	264	45,680	63,412	27.55%	179,092	143,994	44.04%
令和元年参議院通常選挙※4	22,114	3,935	475	52,489	79,013	32.97%	179,590	146,705	53.86%
令和3年衆議院・川崎市長選挙等※2	26,895	4,725	588	60,859	93,067	33.98%	181,010	148,703	62.59%

※1；川崎市長選挙

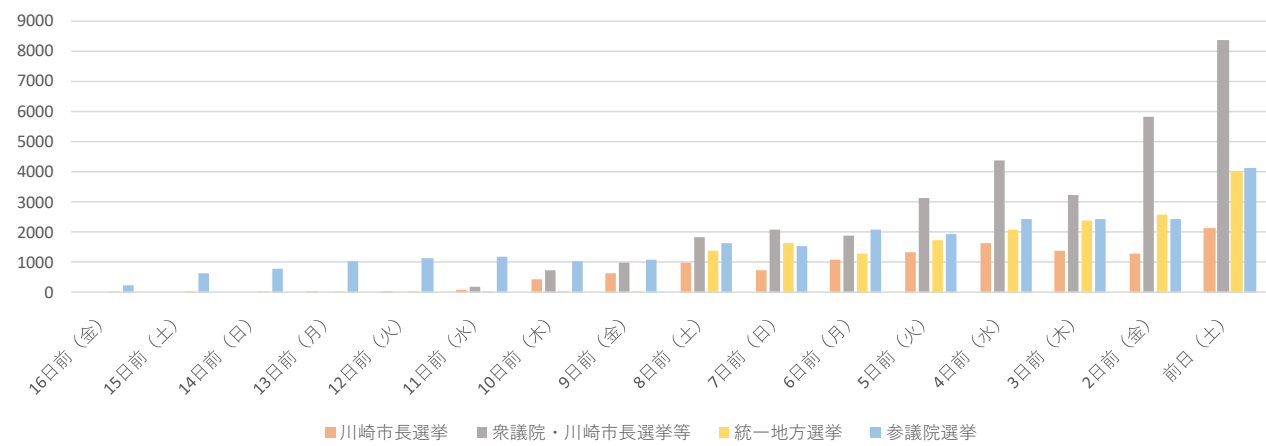
※2；衆議院小選挙区選挙

※3；神奈川県知事選挙

※4；参議院神奈川県選出議員選挙

麻生区における期日前投票利用者は、投票日当日に向かって増加していく傾向があり、特に前日の土曜日については、非常に混雑していることがわかる。また、時間帯別の傾向をみると、正午に向かって混雑する傾向となっている。

麻生区期日前投票者数



麻生区役所期日前投票状況

麻生区役所期日前投票状況	8時30分～	9時～	10時～	11時～	12時～	13時～	14時～	15時～	16時～	17時～	18時～	19時～	計
10月20日	14	32	46	39	45	54	44	44	33	25	29	10	415
10月21日	30	99	161	143	128	96	125	100	83	53	37	33	1,088
10月22日	25	109	137	144	123	110	86	107	55	59	76	45	1,076
10月23日	46	140	242	293	239	261	274	204	184	143	88	42	2,156
10月24日	63	166	269	286	242	294	256	244	230	172	82	51	2,355
10月25日	67	214	321	386	325	272	245	246	188	136	142	90	2,632
10月26日	43	187	361	368	331	327	302	285	212	185	186	105	2,892
10月27日	46	184	381	451	349	316	295	264	271	213	203	134	3,107
10月28日	66	207	372	380	365	320	314	327	270	245	220	189	3,275
10月29日	63	211	307	345	361	298	329	337	293	322	267	216	3,349
10月30日	90	244	382	408	425	409	449	492	474	495	390	292	4,550

26,895

### 柿生分庁舎期日前投票状況

柿生分庁舎期日前投票状況	8時30分～	9時～	10時～	11時～	12時～	13時～	14時～	15時～	16時～	17時～	18時～	19時～	計
10月20日	3	12	11	13	15	14	9	8	6	3	4	2	100
10月21日	4	18	28	18	16	25	15	18	10	13	5	7	177
10月22日	8	10	23	23	15	15	12	8	6	5	12	6	143
10月23日	19	31	67	71	29	70	38	56	28	29	14	12	464
10月24日	13	33	74	78	44	60	60	45	60	39	12	12	530
10月25日	10	30	59	71	46	36	41	25	16	14	16	8	372
10月26日	1	32	61	66	40	67	39	41	30	22	28	17	444
10月27日	4	29	56	54	50	45	31	41	37	29	33	23	432
10月28日	7	41	58	75	43	55	54	49	42	22	35	20	501
10月29日	16	49	74	49	52	53	65	47	51	45	39	37	577
10月30日	24	68	92	120	55	101	88	115	81	120	85	36	985

4,725

麻生区における選挙日当日の投票所は、小中学校を中心に19か所設置されており、混雑状況については、投開票日当日の投票所のうち18か所は午前中にピークを迎えている。また、7時台の来場者が最も少ない投票所は14か所となっており、早い時間帯の混雑が少なくなっている。また、17時台に最小となる投票所も6か所となっている（西生田中学校は同数のため両時間帯に計上）が、18時以降に来場者が最多になっている投票所も1個所あるため、注意を要する。（※18時以降は集計時間が1時間単位ではないため、最小の計上からは除外している）

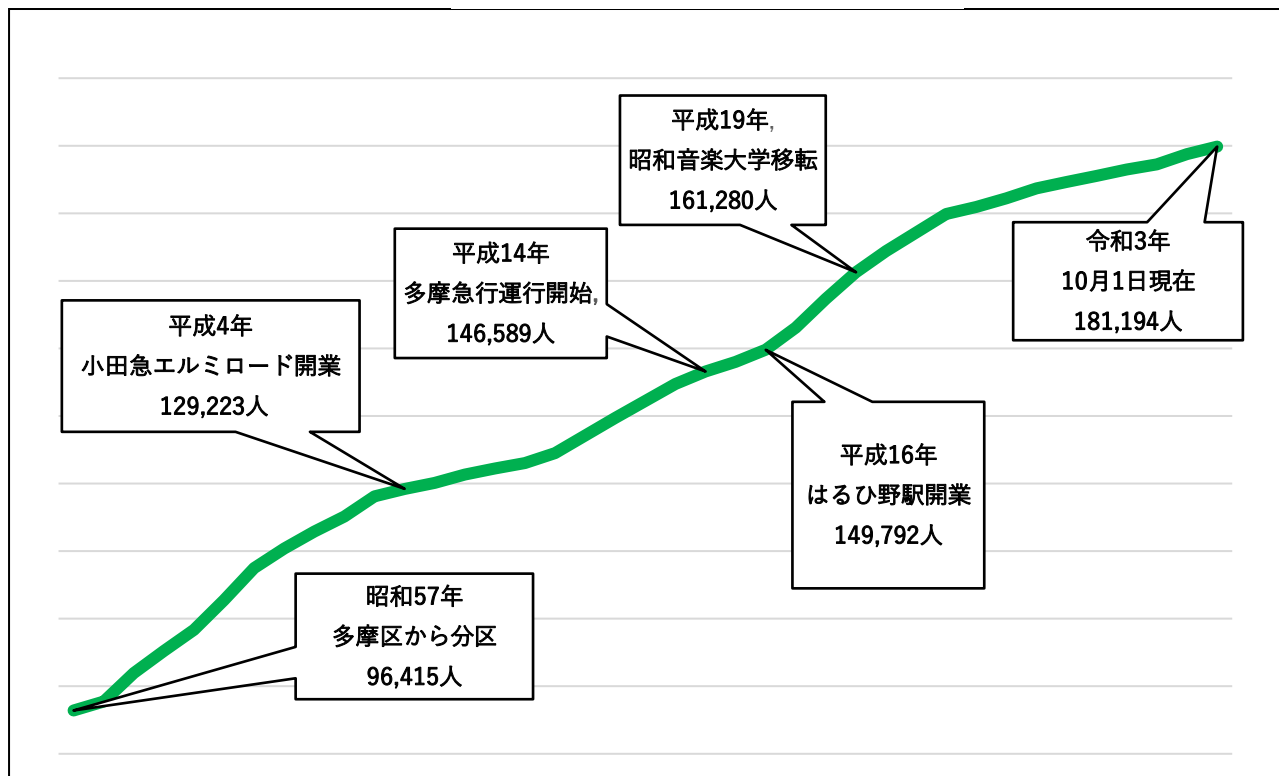
### 10月31日 当日投票所 投票状況

	7時～	8時～	9時～	10時～	11時～	12時～	13時～	14時～	15時～	16時～	17時～	18時～	18時30分～	計
長沢中学校	168	250	402	474	374	161	210	167	193	220	155	83	138	2,995
サンラフレ百合ヶ丘	107	147	203	275	341	276	296	225	231	246	223	86	171	2,827
西生田中学校	114	184	250	352	218	165	137	157	144	166	114	57	101	2,159
西生田小学校	170	251	297	381	446	250	235	237	259	268	218	83	159	3,254
千代ヶ丘小学校	129	212	369	437	387	207	194	218	178	248	167	69	157	2,972
金程小学校	141	218	332	376	365	210	206	215	194	190	187	55	153	2,842
麻生小学校	147	272	401	442	556	469	429	475	386	470	394	141	285	4,867
百合丘小学校	111	185	336	459	492	361	297	264	256	288	300	82	186	3,617
南百合丘小学校	179	241	419	419	460	357	244	238	293	303	236	100	168	3,657
王禅寺中央小学校	170	244	355	360	376	327	242	289	247	282	238	81	166	3,377
虹ヶ丘小学校	112	138	305	300	260	130	120	124	115	120	91	40	64	1,919
東柿生小学校	183	190	339	364	443	193	170	196	207	159	156	87	114	2,801
真福寺小学校	193	237	423	444	443	331	273	216	220	205	171	77	131	3,364
麻生区役所柿生分庁舎	111	133	288	345	335	296	287	274	260	231	179	82	194	3,015
柿生小学校	100	175	272	328	419	163	185	168	208	201	203	67	114	2,603
白鳥中学校	261	297	322	342	342	298	353	363	325	372	382	196	609	4,462
栗木台小学校	185	303	477	357	402	267	274	235	243	227	202	108	159	3,439
岡上小学校	117	247	262	333	282	195	138	139	147	148	116	52	104	2,280
はるひ野小中学校	165	261	461	603	527	355	267	372	327	352	301	161	257	4,409

## 1 麻生区の人口と世帯数の推移

麻生区は、昭和57年7月1日、川崎市の行政区再編によって、多摩区から分区して誕生している。新百合ヶ丘駅の北側には、麻生区役所、市民館、図書館、消防署、川崎市アートセンターなどの公共施設があり、また、南側には大型ショッピングセンター、シネマコンプレックスなどからなる商業地域が形成されている。

麻生区の人口推移及び主な出来事



川崎市及び麻生区の人口推移

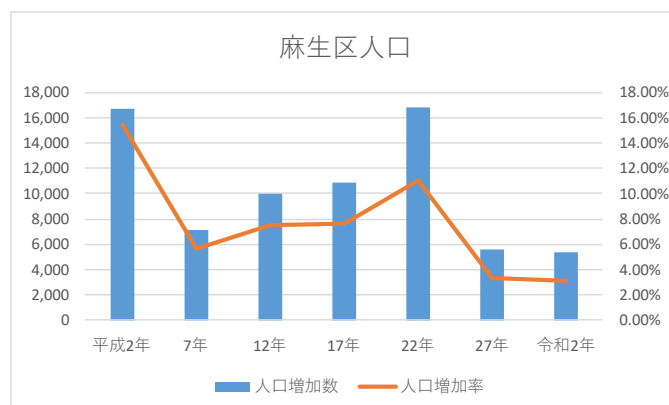
(各年10月1日)

	(57年7月1日)	昭和60年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年	3年
川崎市人口	1,055,509	1,088,624	1,202,820	1,249,905	1,327,011	1,425,512	1,475,213	1,539,081	1,541,159
麻生区人口	96,415	108,353	132,240	142,238	153,101	169,926	175,523	180,889	181,194

麻生区における5年毎の人口増加数をみると、分区以降伸び続け平成22年国勢調査では16,825人、10.99%増加したものの、平成27年及び、令和2年実施の国勢調査では、増加率が鈍化している。

麻生区の人口推移 (各年10月1日)

	人口増加数	人口増加率
平成2年	16,774	15.48%
7年	7,113	5.68%
12年	9,998	7.56%
17年	10,863	7.64%
22年	16,825	10.99%
27年	5,597	3.29%
令和2年	5,366	3.06%



麻生区の主要駅である小田急新百合ヶ丘駅を利用する乗車人数をみると、平成27年から令和元年まで増加している。また同時期の世帯数も増加しており、人口増加に応じて駅利用者も増加している。

主要駅の1日平均乗車人員

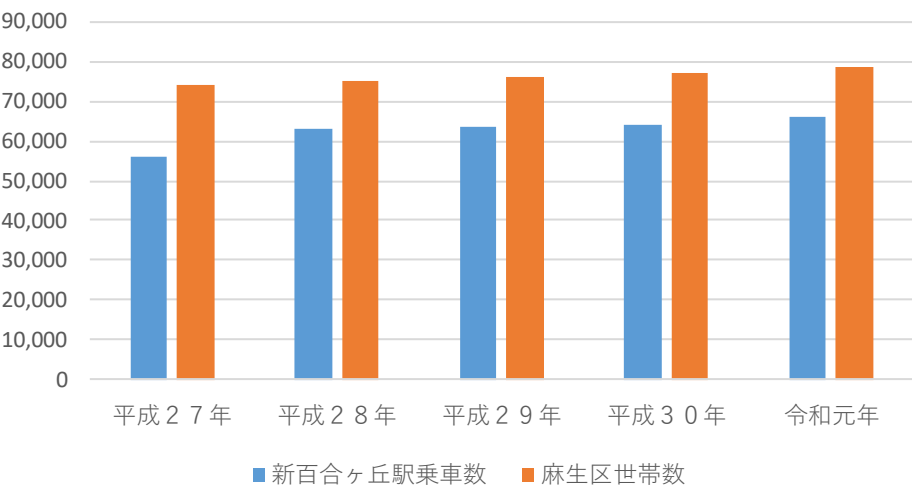
(単位:人)

鉄道事業者	駅 名	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
京急	京急川崎	61,126	62,656	64,190	65,481	66,950
JR	川崎	207,725	209,480	211,896	214,601	215,234
	武蔵小杉	124,325	128,079	129,637	130,752	129,194
	武蔵溝ノ口	83,756	84,575	85,355	86,346	86,165
	登戸	81,162	81,664	81,781	82,715	82,838
	新川崎	27,085	27,264	28,820	29,407	30,255
小田急	登戸	80,879	81,104	81,339	82,996	85,538
	新百合ヶ丘	55,912	62,981	63,727	64,251	66,062
	向ヶ丘遊園	32,836	33,283	33,666	33,647	34,337
東急	溝の口	151,268	152,992	155,631	157,390	159,823
	武蔵小杉	107,900	110,183	112,156	112,513	113,884
	元住吉	32,215	32,554	33,174	33,913	34,581
	鷺沼	30,569	30,898	31,092	31,242	31,707
	宮前平	25,802	26,017	26,344	26,709	27,032
京王	京王稲田堤	26,117	26,840	27,356	28,054	28,902

\* 京浜急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、小田急電鉄株式会社、東急電鉄株式会社、京王電鉄株式会社

\* JR東日本は、各年度の1日平均乗車人員を表したものを。

新百合ヶ丘駅乗車数・麻生区世帯数比較



	新百合ヶ丘駅乗車数	麻生区世帯数
平成27年	55,912	74,151
平成28年	62,981	75,131
平成29年	63,727	75,999
平成30年	64,251	77,294
令和元年	66,062	78,602

## 2 世帯数と人口の状況

麻生区の世帯数は、平成26年の 74,980世帯から平成27年に若干減少したものの、それ以降毎年増加傾向にあり、令和2年には 79,395世帯となり、6年間で 4,415世帯、5.89%増加している。

また、人口は平成26年の 174,659人から令和2年には 180,705人となり6年間で 6,046人、3.46%増と増加傾向が継続している。

人口動態と人口増加率をみると、平成26年には自然動態（※出生と死亡の差）が 401人増、社会動態（※転入と転出の差）が 561人増で、人口動態は 962人、0.55%増加、平成26年から平成29年までは増加数が1千人を下回っており、増減率も0.5%前後で推移していたが、平成30年には自然動態の増加幅が 23人と低減する中、社会動態は大幅な転入超過により 1,487人増加し、人口動態は 1,510人、0.84%増となっている。また、令和元年の自然動態は 58人の死亡超過に転じる中、社会動態は転入超過が継続して 1,189人の転入超過となり、人口動態は 1,131人、0.63%増加している。

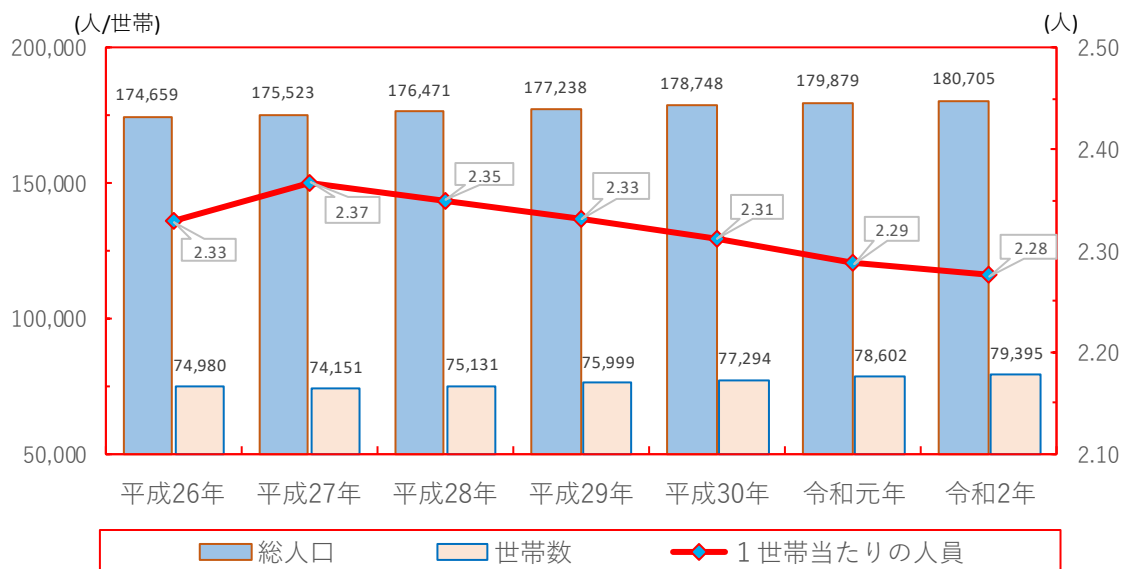
人口密度(1km<sup>2</sup>当たり)をみると、平成26年の 7,558人から毎年微増傾向が継続し、令和2年には 7,819人となり、6年間で 261人、3.94%増加している。

1世帯当たりの人員をみると、平成26年の2.33人からほぼ横ばいの状態で推移しており、令和2年は 2.28人となり、6年間で 0.05人、2.15%減少している。

麻生区の世帯数と人口、人口動態等の推移（各年10月1日現在）

区 分	世帯数	人口			人口動態			人口増加率(%)	人口密度(1km <sup>2</sup> 当たり)	世帯人員(1世帯当たり)
		総人口	男	女	増減	自然動態	社会動態			
平成26年	74,980	174,659	84,930	89,729	962	401	561	0.55%	7,558	2.33
平成27年	74,151	175,523	85,491	90,032	773	257	516	0.49%	7,595	2.37
平成28年	75,131	176,471	85,886	90,585	948	196	752	0.54%	7,636	2.35
平成29年	75,999	177,238	86,160	91,078	767	39	728	0.43%	7,669	2.33
平成30年	77,294	178,748	86,653	92,095	1,510	23	1,487	0.84%	7,735	2.31
令和元年	78,602	179,879	87,091	92,788	1,131	-58	1,189	0.63%	7,784	2.29
令和2年	79,395	180,705	87,391	93,314	806	-126	932	0.46%	7,819	2.28

麻生区の世帯数と人口、世帯人員の推移（各年10月1日現在）



市全体の世帯数をみると、令和2年の世帯数は 762,813世帯で前年比 22,297世帯、3.01%増加しているが、令和2年の人口は 1,521,104人（男 770,273人、女 750,831人）で前年比 9,353人減（男 4,018人減、女 5,335人減）、0.61%減となっている。

人口動態をみると、令和2年は 7,307人、0.48%増加しており、自然動態では「出生」が「死亡」を1,213人超過、社会動態では「転入」が「転出」を 6,094人超過しており、大幅な人口増加につながっている。また、1世帯当たりの人員は 1.99人、人口密度(1km<sup>2</sup>当たり)は 10,538人となっている。

区別に世帯数をみると、最も多いのは中原区の 134,523世帯（構成比 17.64%）で、次いで川崎区が 129,221世帯（同 16.94%）、高津区が 114,810世帯（同 15.05%）の順となっており、この3区で全体の 49.63%を占めている。また、麻生区は 82,116世帯で最も少なくなっている。

人口をみると、最も多いのは中原区の 259,648人（構成比 17.07%）で、次いで川崎区が234,500人（同 15.42%）、宮前区が 233,355人（同 15.34%）の順となっており、この3区で全体の 47.83%を占めている。また、麻生区は 178,545人で、最も少ない幸区の 171,821人に次いで2番目に少なくなっている。

人口動態をみると、最も増加しているのは中原区の 1,989人で、自然動態が 1,136人、社会動態が 853人増と、増加しており、次いで多摩区が 1,703人、宮前区が 1,541人の順となっている。また、314人の減となっている川崎区、増加数が537人の幸区に次いで、麻生区は806人で3番目に少なくなっている。川崎区と麻生区の自然動態は「死亡」が「出生」を超過し、それぞれ 799人、126人の減少となっている。

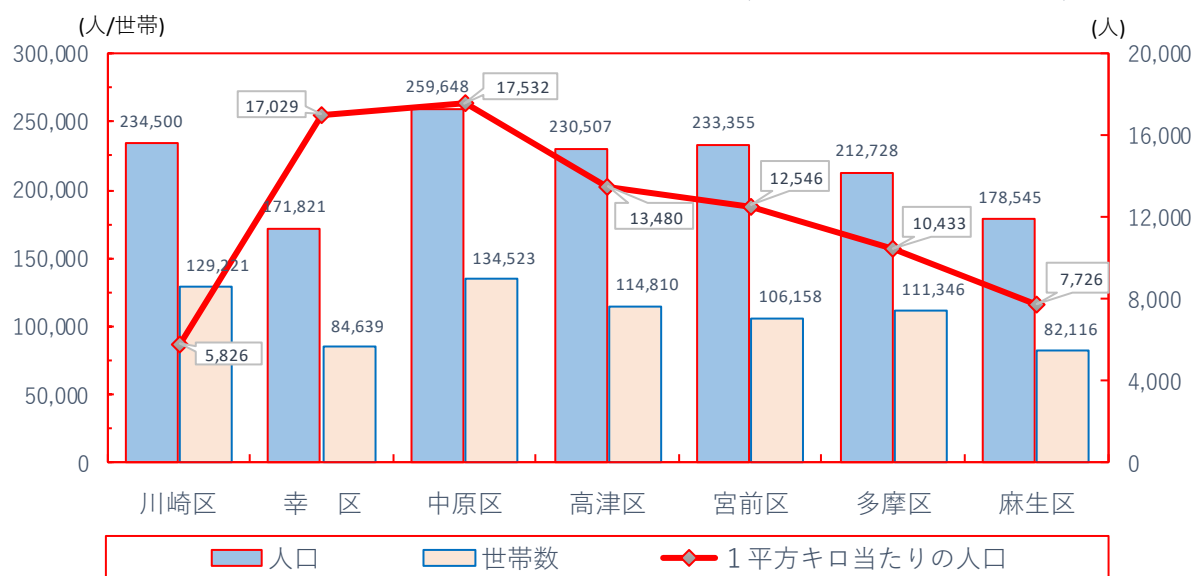
人口増加率をみると、最も高いのは多摩区の 0.81%で、次いで中原区が 0.77%、多摩区が 0.66%の順となっており、麻生区は 0.45%で、3番目に低くなっている。

人口密度(1km<sup>2</sup>当たり)をみると、最も多いのは中原区の 17,532人で、次いで幸区が 17,029人、高津区が 13,480人の順となっており、川崎区(5,826人)が工場地帯、コンビナート地域があるため最も低く、次いで麻生区が 7,726人と2番目に低く、特別緑地保全地区や農業振興地域など緑豊かな地域の影響が大きいなど、区の特徴となっている。

区別の世帯数と人口、人口動態等の状況（令和2年12月末日現在）

区 分	世帯数	人口			人口動態			人口 増加率(%)	人口密度 (1km <sup>2</sup> 当たり)	面積 (平方キロ)
		総数	男	女	増減	自然動態	社会動態			
全 市	762,813	1,521,104	770,273	750,831	7,307	1,213	6,094	0.48%	10,538	144.35
川崎区	129,221	234,500	126,268	108,232	-314	-799	485	-0.13%	5,826	40.25
幸 区	84,639	171,821	87,578	84,243	537	192	345	0.31%	17,029	10.09
中原区	134,523	259,648	131,215	128,433	1,989	1,136	853	0.77%	17,532	14.81
高津区	114,810	230,507	115,477	115,030	1,045	432	613	0.46%	13,480	17.10
宮前区	106,158	233,355	114,648	118,707	1,541	100	1,441	0.66%	12,546	18.60
多摩区	111,346	212,728	108,125	104,603	1,703	278	1,425	0.81%	10,433	20.39
麻生区	82,116	178,545	86,962	91,583	806	-126	932	0.45%	7,726	23.11

区別の世帯数と人口、人口密度の状況（令和2年12月末日現在）



### 3 人口動態の状況

麻生区の人口動態をみると、自然動態は平成26年以降、「出生」が「死亡」を上回っており増加傾向が継続していたが、平成30年に「出生」が 1,339人に対し、「死亡」が 1,386人で 47人の減少に転じている。また、令和元年には出生数が 36人減少したのに対し、死亡数は 14人増加したことにより 97人減と減少幅が拡大し、令和2年には、出生数が24人減少したのに対し、死亡数は 5人増と減少幅がさらに拡大している。

社会動態は、平成 8 年以降増加が続いており、平成26年以降も「転入」が 1 万人以上いる中、「転出」は 9 千人台で推移しており、「転入」超過が継続している。また、平成30年は「転入」超過により 1,570人増、令和元年も 1,321人増と、「転入」の超過が人口の増加に寄与している。

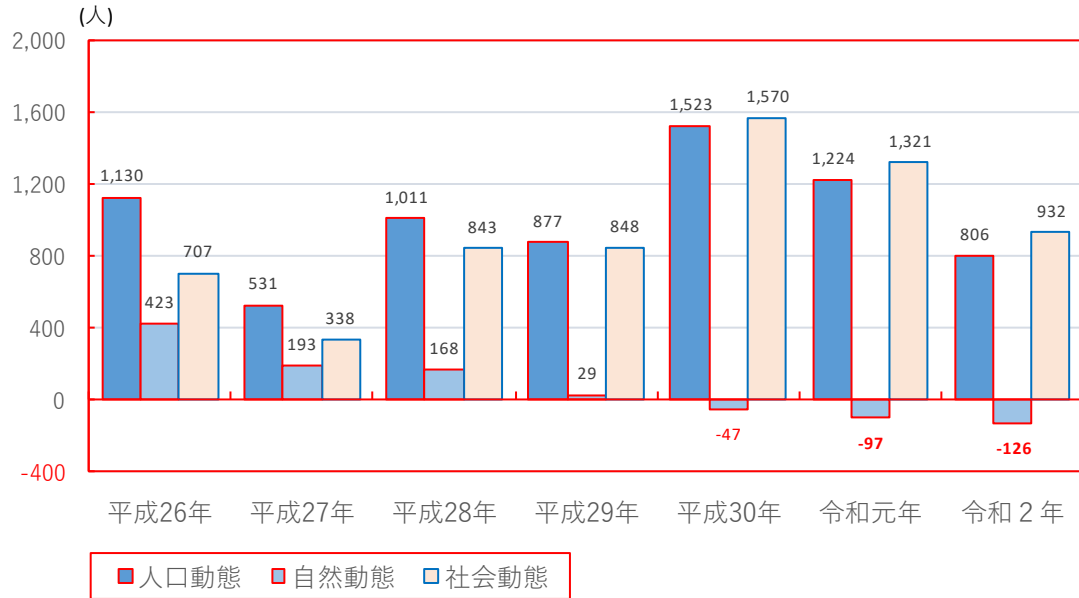
麻生区の人口動態の推移（各年 1 月～12月）

区 分	人口動態	自 然 動 態			社 会 動 態		
		増減	出生	死亡	増減	転入	転出
平成26年	1,130	423	1,489	1,066	707	10,218	9,511
平成27年	531	193	1,427	1,234	338	10,317	9,979
平成28年	1,011	168	1,437	1,269	843	10,478	9,635
平成29年	877	29	1,320	1,291	848	10,427	9,579
平成30年	1,523	-47	1,339	1,386	1,570	10,929	9,359
令和元年	1,224	-97	1,303	1,400	1,321	11,028	9,707
令和2年	806	-126	1,279	1,405	932	10,443	9,511

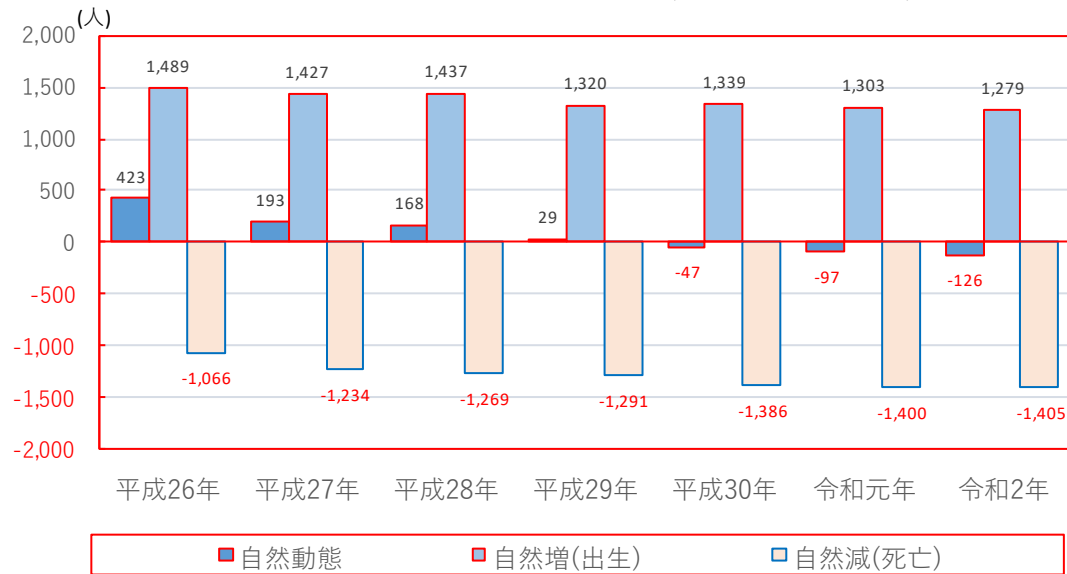
※ 「住民基本台帳法」及び「戸籍法」の届出による日本人及び外国人住民の動態をまとめている。



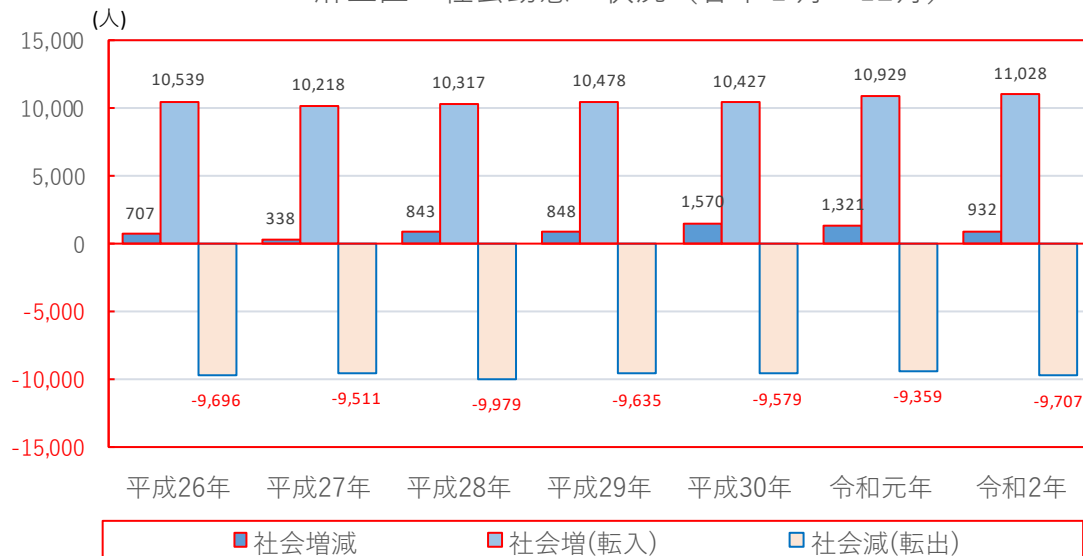
麻生区の人口動態の推移（各年1月～12月）



麻生区の自然動態の状況（各年1月～12月）



麻生区の社会動態の状況（各年1月～12月）



市全体の人口動態をみると、自然動態は「出生」12,939人（前年比 482人減）に対し、「死亡」が 11,726人（同 49人増）で 1,213人増（同 531人減）となっており、また社会動態は「転入」104,259人（前年比 6,829人減）に対し、「転出」が 98,165人（同 777人減）で 6,094人増（同6,052人減）となっている。

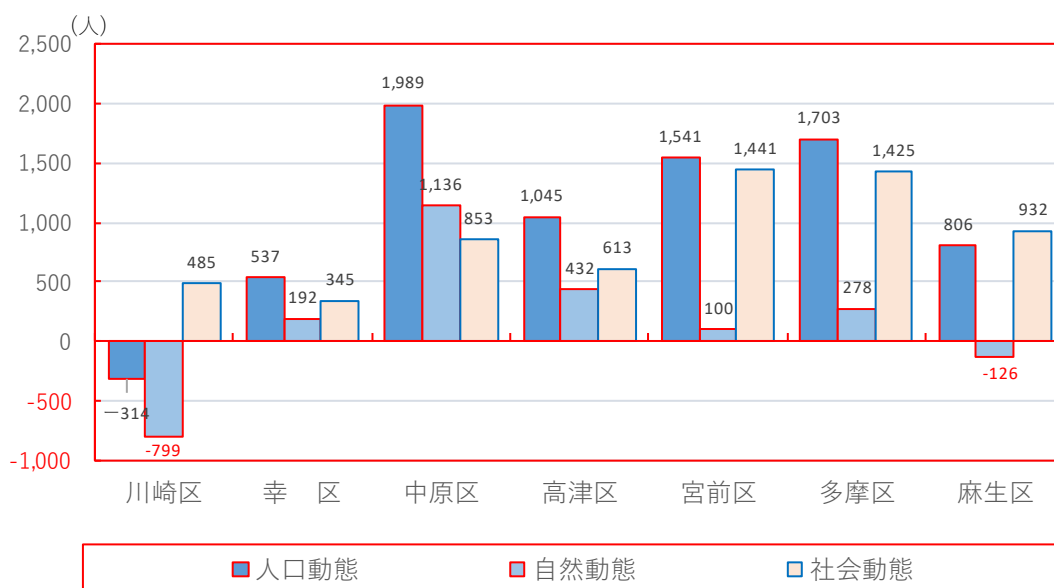
区別の人口動態をみると、川崎区以外の6区は増加となっており、自然動態をみると、麻生区126人減と川崎区 799人減の2区で減少している一方、他の5区で増加しており、最も増加している中原区では「出生」が 2,751人に対し、「死亡」が 1,615人で、1,136人増と大幅に超過している。

社会動態をみると、すべての区で「転入」が「転出」を上回っており、最も増加している宮前区は1,441人増で、次いで多摩区が 1,425人増、麻生区が 932人増の順となっている。

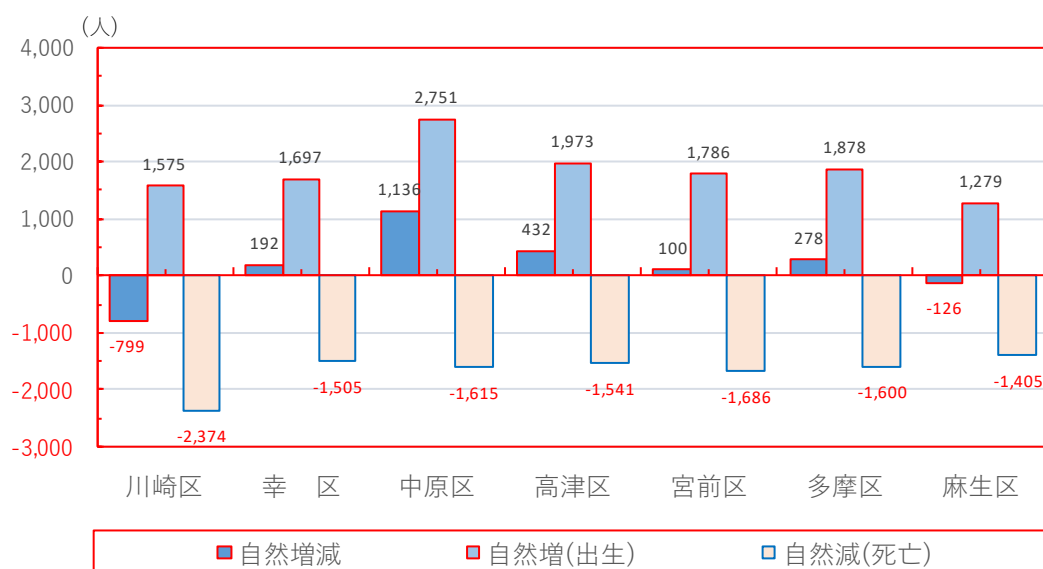
区別の人口動態の状況（令和2年1月～令和2年12月）

区 分	人口動態	自 然 動 態			社 会 動 態		
		増減	出生	死亡	増減	転入	転出
全 市	7,307	1,213	12,939	11,726	6,094	104,259	98,165
川崎区	-314	-799	1,575	2,374	485	15,633	15,148
幸 区	537	192	1,697	1,505	345	10,504	10,159
中原区	1,989	1,136	2,751	1,615	853	21,114	20,261
高津区	1,045	432	1,973	1,541	613	16,313	15,700
宮前区	1,541	100	1,786	1,686	1,441	14,005	12,564
多摩区	1,703	278	1,878	1,600	1,425	16,247	14,822
麻生区	806	-126	1,279	1,405	932	10,443	9,511

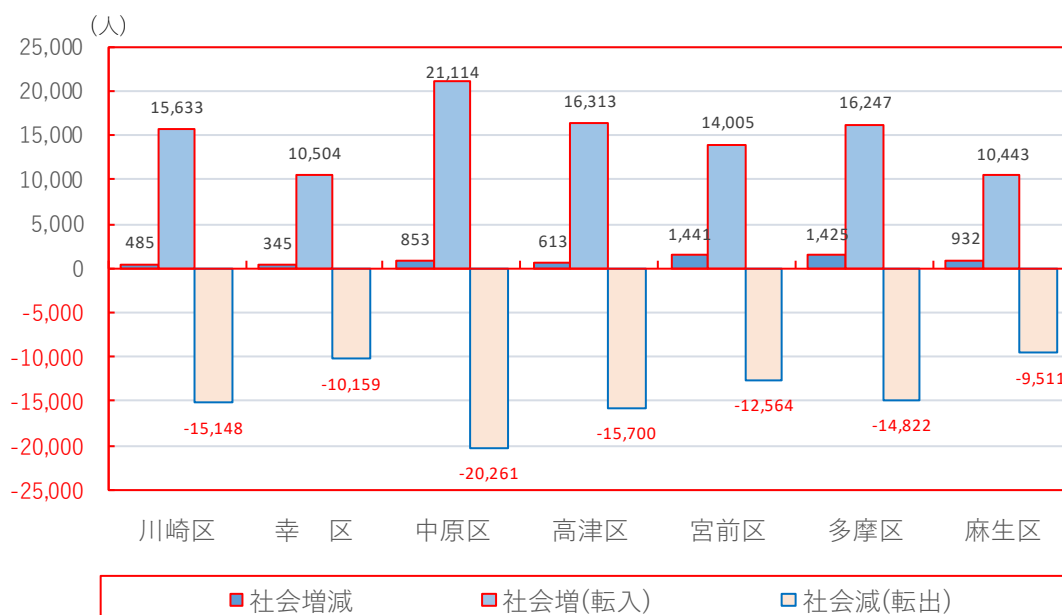
区別の人口動態の状況（令和2年1月～令和2年12月）



区別の自然動態の状況（令和2年1月～令和2年12月）



区別の社会動態の状況（令和2年1月～令和2年12月）



#### 4 年齢(3区分)別人口の状況

麻生区における年齢(3区分)別人口の推移をみると、0～14歳の「年少人口」は、平成26年の23,866人から令和2年の23,039人まで平成30年の前年比0.27%増加以外は、徐々に減少しており、6年間で827人3.47%減少しています。構成比をみると、平成26年の13.66%から令和2年には12.75%と0.91%減少しており、ともに緩やかな減少傾向である。

15～64歳の「生産年齢人口」は、令和2年には113,962人と前年より150人減少しているが、平成26年の111,645人から令和2年には113,962人と2,317人増加となり、緩やかな増加傾向がみられる。しかし構成比は、63.92%から63.07%へと0.85%減少している。

65歳以上の「老年人口」は、平成26年の37,953人から令和2年には43,704人と5,751人、15.15%の増、構成比は21.73%から24.19%へと2.46%増加している。

さらに、75歳以上の「後期高齢者人口」をみると、平成26年の17,822人から毎年増加しており、令和2年には23,505人と5,683人、31.89%の増、構成比は10.27%から13.01%へと2.74ポイント増加しており、高齢化とともに高年齢化が進み、「年少人口」と「後期高齢者人口」との差は平成26年の6,044人から令和元年には749人と大幅に縮小しており、令和2年には、「後期高齢者人口」が「年少人口」を上回って、この数字からも高齢年齢化が進んでいることが分かる。

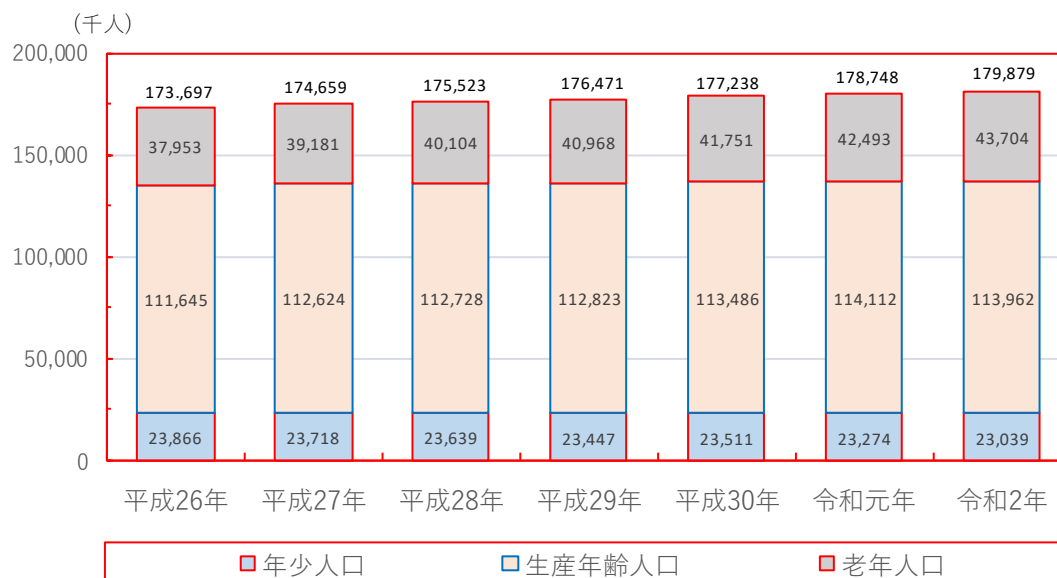
麻生区の年齢(3区分)別人口の推移（各年10月1日現在）

区 分	人口（人）					構成比（％）			
	総数	年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口		年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口	
				65歳以上	うち75歳以上			65歳以上	うち75歳以上
平成26年	174,659	23,866	111,645	37,953	17,822	13.66%	63.92%	21.73%	10.27%
平成27年	175,523	23,718	112,624	39,181	18,525	13.51%	64.16%	22.32%	10.55%
平成28年	176,471	23,639	112,728	40,104	19,562	13.40%	63.88%	22.73%	11.09%
平成29年	177,238	23,447	112,823	40,968	20,581	13.23%	63.66%	23.11%	11.61%
平成30年	178,748	23,511	113,486	41,751	21,506	13.15%	63.49%	23.36%	12.03%
令和元年	179,879	23,274	114,112	42,493	22,525	12.94%	63.44%	23.62%	12.52%
令和2年	180,705	23,039	113,962	43,704	23,505	12.75%	63.07%	24.19%	13.01%

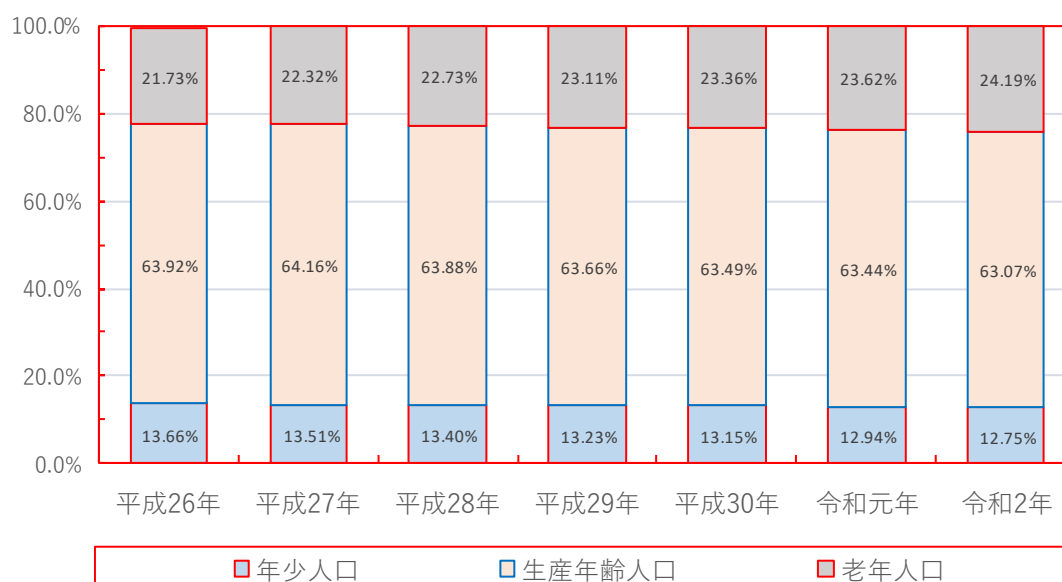
麻生区の年齢別人口の対前年増加数、人口増減率

区 分	対前年増加数（人）、人口増減率（％）									
	総数		年少人口		生産年齢人口		老年人口			
			0～14歳		15～64歳		65歳以上		うち75歳以上	
平成26年	962	0.55%	30	0.13%	-800	-0.71%	1,732	4.78%	782	4.59%
平成27年	2,059	1.18%	-148	-0.62%	979	0.88%	1,228	3.24%	703	3.94%
平成28年	948	0.54%	-79	-0.33%	104	0.09%	923	2.36%	1,037	5.60%
平成29年	767	0.43%	-192	-0.81%	95	0.08%	864	2.15%	1,019	5.21%
平成30年	1,510	0.85%	64	0.27%	663	0.59%	783	1.91%	925	4.49%
令和元年	1,131	0.63%	-237	-1.01%	626	0.55%	742	1.78%	1,019	4.74%
令和2年	826	0.63%	-235	-1.01%	-150	-0.13%	1,211	2.15%	980	4.35%

麻生区の年齢(3区分)別人口の推移（各年10月1日現在）



麻生区の年齢(3区分)別構成比の推移（各年10月1日現在）



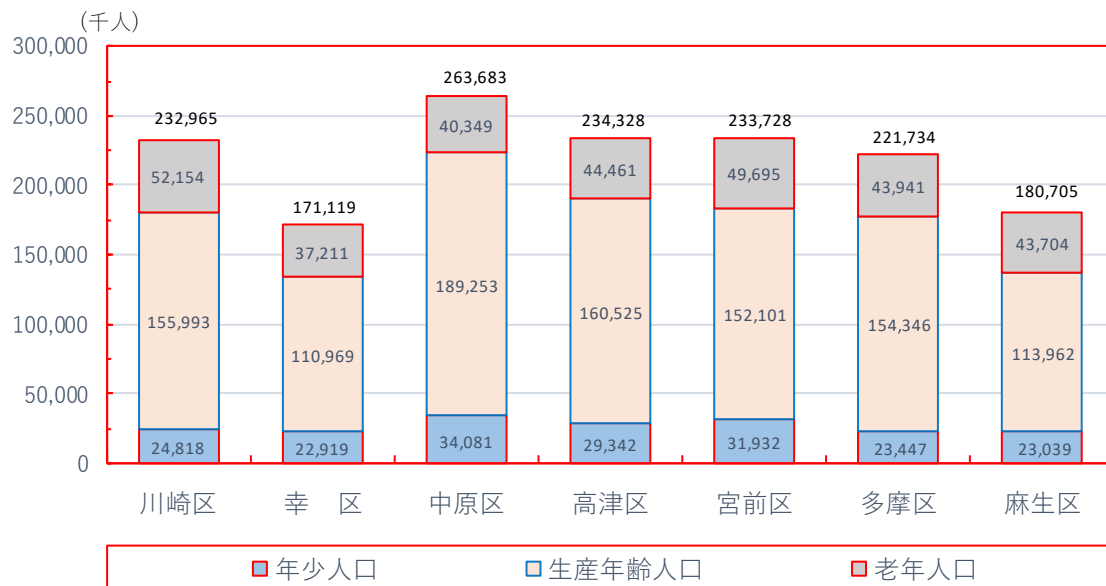
## 区別の年齢(3区分)別人口の状況 (令和2年10月1日現在)

区 分	人口 (人)					構成比 (%)			
	総数	年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口 65歳以上 うち75歳以上		年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口 65歳以上 うち75歳以上	
全 市	1,538,262	189,578	1,037,169	311,515	160,269	12.32%	67.42%	20.25%	10.42%
川崎区	232,965	24,818	155,993	52,154	26,026	10.65%	66.96%	22.39%	11.17%
幸 区	171,119	22,919	110,969	37,211	19,254	13.39%	64.85%	21.75%	11.25%
中原区	263,683	34,081	189,253	40,349	20,190	12.92%	71.77%	15.30%	7.66%
高津区	234,328	29,342	160,525	44,461	22,570	12.52%	68.50%	18.97%	9.63%
宮前区	233,728	31,932	152,101	49,695	25,812	13.66%	65.08%	21.26%	11.04%
多摩区	221,734	23,447	154,346	43,941	22,912	10.57%	69.61%	19.82%	10.33%
麻生区	180,705	23,039	113,962	43,704	23,505	12.75%	63.07%	24.19%	13.01%

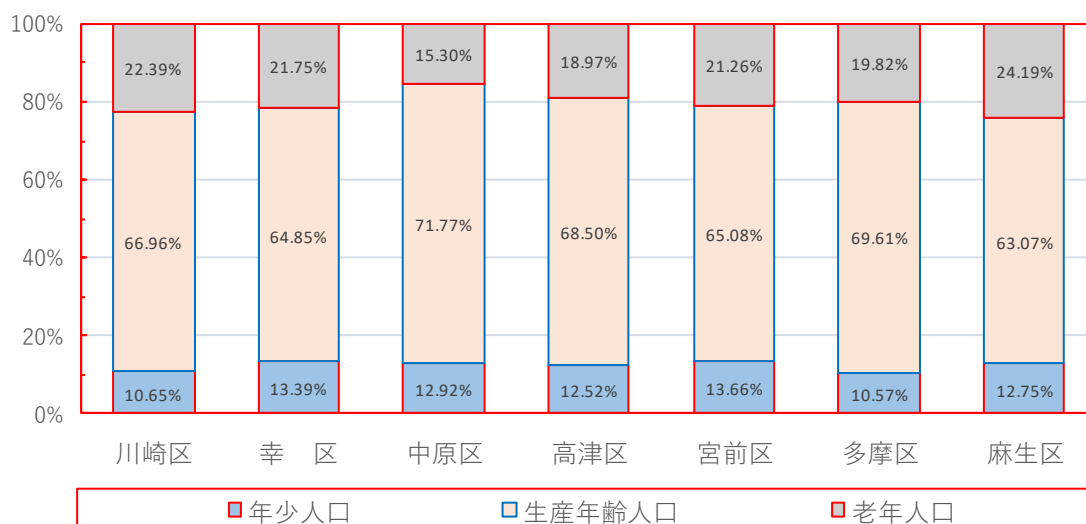
## 区別の年齢(3区分)別人口の対前年増加数、人口増減率(令和2年10月1日現在)

区 分	対前年増加数 (人)、人口増減率 (%)									
	総数		年少人口 0～14歳		生産年齢人口 15～64歳		老年人口 65歳以上 うち75歳以上			
全 市	7,805	0.51%	42	0.02%	7,054	0.68%	709	0.23%	1,829	1.15%
川崎区	-151	-0.06%	-1,032	-3.99%	326	0.21%	555	1.08%	257	1.00%
幸 区	960	0.56%	741	3.34%	1,600	1.46%	-1,401	-3.63%	-545	-2.75%
中原区	1,858	0.71%	152	0.45%	1,348	0.72%	358	0.90%	139	0.69%
高津区	1,043	0.44%	-398	-1.34%	734	0.46%	707	1.62%	905	4.18%
宮前区	1,403	0.60%	596	1.90%	2,171	1.45%	-1,364	-2.67%	-318	-1.22%
多摩区	1,866	0.85%	218	0.94%	1,005	0.66%	643	1.49%	411	1.83%
麻生区	826	0.46%	-235	-1.01%	-150	-0.13%	1,211	2.85%	980	4.35%

## 区別の年齢(3区分)別人口の状況 (令和2年10月1日現在)



区別の年齢(3区分)別構成比の状況 (令和2年10月1日現在)



市全体の年齢(3区分)別人口をみると、令和2年の総人口は 1,538,262人であり、そのうち 0～14歳の「年少人口」は 189,578人(構成比 12.32%)、15～64歳の「生産年齢人口」は 1,037,169人(同 67.42%)、65歳以上の「老年人口」は 311,515人(同 20.25%)、75歳以上の「後期高齢者人口」は 160,269人(同 10.42%) になっている。

また、対前年比をみると、総人口は 7,805人、0.51%増、そのうち「年少人口」は 42人、0.02%増、「生産年齢人口」は 7,054人、0.68%増、「老年人口」は 709人、0.23%増と3区分すべてで増加している。

区別に年齢(3区分)別人口の構成比をみると、「年少人口」で最も高いのは宮前区の 13.66%で、次いで幸区が 13.39%、中原区が 12.92%の順となっている。また、麻生区は 12.75%で4番目に高くなっている。

次に、「生産年齢人口」は、最も高いのは中原区の 71.77%で、次いで多摩区が 69.61%、高津区が 68.50%の順となっている。また、麻生区は 63.07%で最も低くなっている。

また、「老年人口」は、麻生区が 24.19%で最も高く、次いで川崎区が 22.39%、幸区が 21.75%の順となっている。さらに、「後期高齢者人口」でも、最も高いのは麻生区の 13.01%で、次いで幸区が 11.25%、川崎区が 11.17%の順となっており、最も低い中原区(7.66%)と高津区(9.63%)を除く5区で構成比が 10%を上回っている。

区別に対前年比をみると、「年少人口」で最も増加したのは幸区の 741人増で、次いで宮前区が 596人増、多摩区が 218人増の順となっており3区で増加している。一方、川崎区と高津区と麻生区の3区で減少している。

次に、「生産年齢人口」は、麻生区の150人の減少以外、6区すべてで増加しており、最も増加したのは宮前区の 2,171人増で、次いで幸区が 1,600人増、中原区が 1,348人増の順となっている。

また、「老年人口」で最も増加したのは麻生区の 1,211人増で、次いで高津区が 707人増、多摩区643人増の順となっている。さらに、75歳以上の「後期高齢者人口」でも、最も増加したのは麻生区の 980人増で、次いで高津区が 905人増、多摩区が411人の順となっており、この3区で2,000人以上増加している。

## 5 出生数・出生率の状況

麻生区における出生数・出生率の推移をみると、平成25年は1501人の出生数があったが、その後、増減を繰り返しながら微減傾向で推移している。また、出生率は平成25年の 8.6%から平成29年には7%台に低下し、令和元年には 7.1%と6年間で 1.50ポイント減少している。

一方、死亡数は平成25年から平成26年までは 22人減と微減で推移したが、平成27年には 161人増と増加に転じて推移しており、平成30年には死亡数 1,381人に対し、出生数 1,328人と死亡数が53人上回り、自然動態が減少に転じている。

婚姻件数をみると、平成25年の 844件をピークに減少が続いていたが、平成29年には 766件となり前年比 63件増と増加に転じ、令和元年も 816件で 32件増と前年の件数を上回っている。

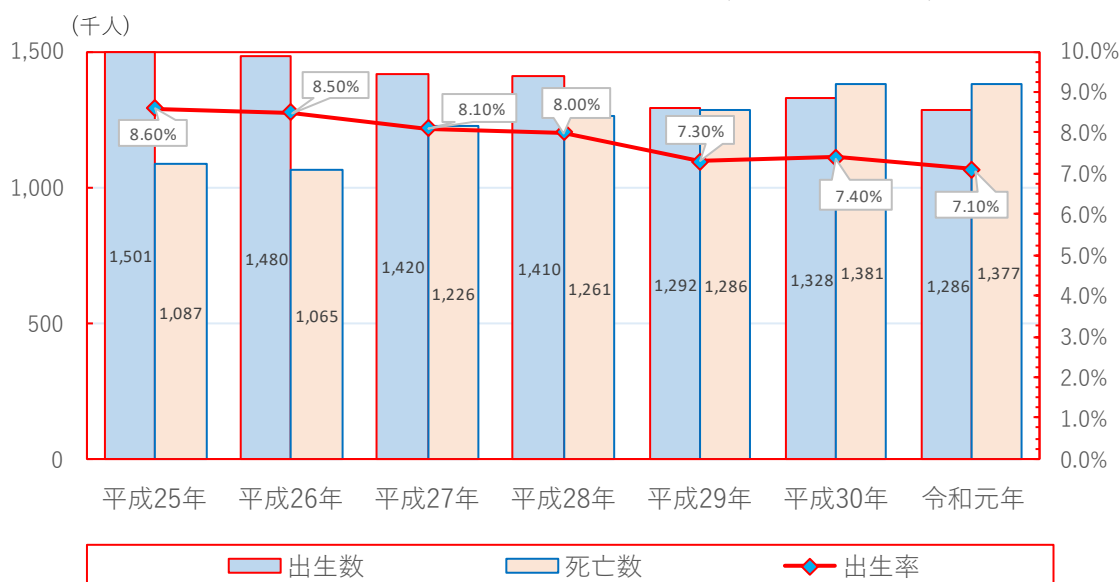
麻生区の出生数・出生率等の推移（各年1～12月）

区 分	婚姻件数	自然動態	出 生			出生率 (%)	死 亡		
			総数	男	女		総数	男	女
平成25年	844	414	1,501	787	714	8.60%	1,087	605	482
平成26年	785	415	1,480	769	711	8.50%	1,065	590	475
平成27年	747	194	1,420	706	714	8.10%	1,226	650	576
平成28年	703	149	1,410	723	687	8.00%	1,261	642	619
平成29年	766	6	1,292	648	644	7.30%	1,286	675	611
平成30年	784	-53	1,328	660	668	7.40%	1,381	743	638
令和元年	816	-91	1,286	698	588	7.10%	1,377	709	668

※ 出生・死亡は日本人、婚姻はいずれかが日本人を対象としている。

※ 川崎市統計書「表Ⅲ-5 人口動態(自然増減・社会増減)」の出生・死亡の数値とは集計方法が異なるため一致しない。

麻生区の出生数・出生率等の推移（各年1～12月）





市全体の状況をみると、令和元年の出生数は 12,971人、出生率は8.5%だったのに対し、死亡数は 11,566人で、自然動態は 1,405人増となっており、いずれも男の人数が女を上回っている。

区別に令和元年の出生数・出生率等の状況をみると、出生数が最も多いのは中原区の 2,782人で、次いで高津区が 2,070人、宮前区が 1,821人の順となっており、麻生区は 1,286人で最も少なくなっている。

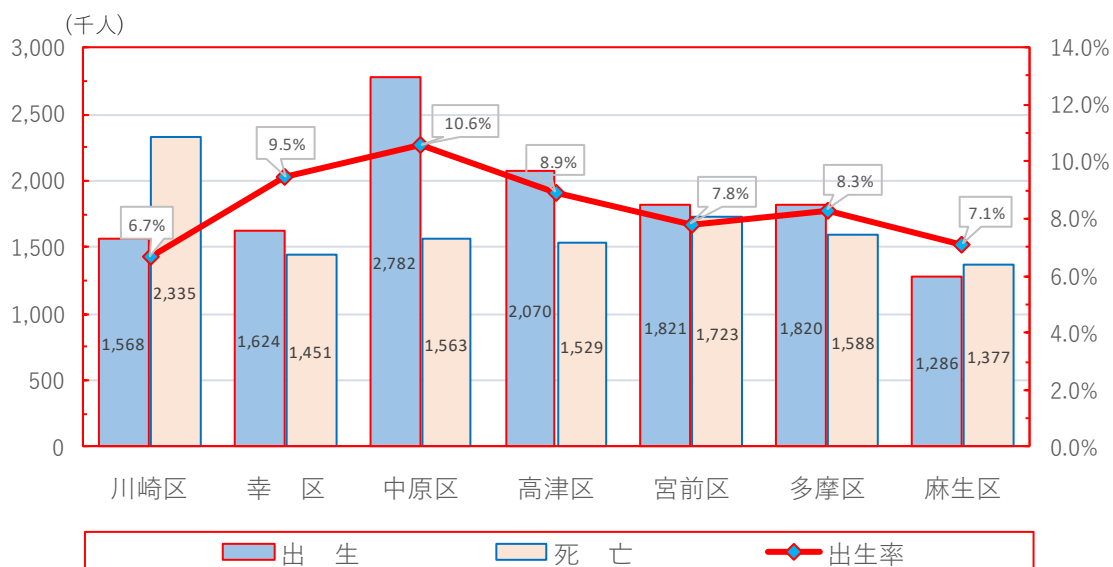
出生率をみると、最も高いのは中原区の 10.6%で、次いで幸区が 9.5%、高津区が 8.9%となっており、麻生区は 7.1%で川崎区の6.7%に次いで低くなっている。

婚姻件数をみると、最も多いのは中原区の 2,371件で、次いで多摩区が 1,745件、高津区が 1,608件の順となっており、麻生区は 816件で最も少なくなっている。また、婚姻率をみると、最も高いのは中原区の 9.1%で、次いで多摩区が 7.9%、幸区が 7.0%の順となっており、麻生区は 4.5%で最も低くなっている。

区別の出生数・出生率等の状況（令和元年1～12月）

区 分	婚姻件数	婚姻率	自然動態	出 生			出生率	死 亡		
				総数	男	女		総数	男	女
全 市	10,303	6.7%	1,405	12,971	6,741	6,230	8.5%	11,566	6,212	5,354
川崎区	1,490	6.4%	-767	1,568	872	696	6.7%	2,335	1,353	982
幸 区	1,191	7.0%	173	1,624	839	785	9.5%	1,451	772	679
中原区	2,371	9.1%	1,219	2,782	1,439	1,343	10.6%	1,563	788	775
高津区	1,608	6.9%	541	2,070	1,081	989	8.9%	1,529	846	683
宮前区	1,082	4.7%	98	1,821	938	883	7.8%	1,723	893	830
多摩区	1,745	7.9%	232	1,820	874	946	8.3%	1,588	851	737
麻生区	816	4.5%	-91	1,286	698	588	7.1%	1,377	709	668

区別の出生数・出生率等の状況（令和元年1～12月）



## 6 麻生区の保育所

麻生区の認可保育所数は33となっており、そのうち上麻生保育園、高石保育園、白山保育園は公設公営の保育所となっている。

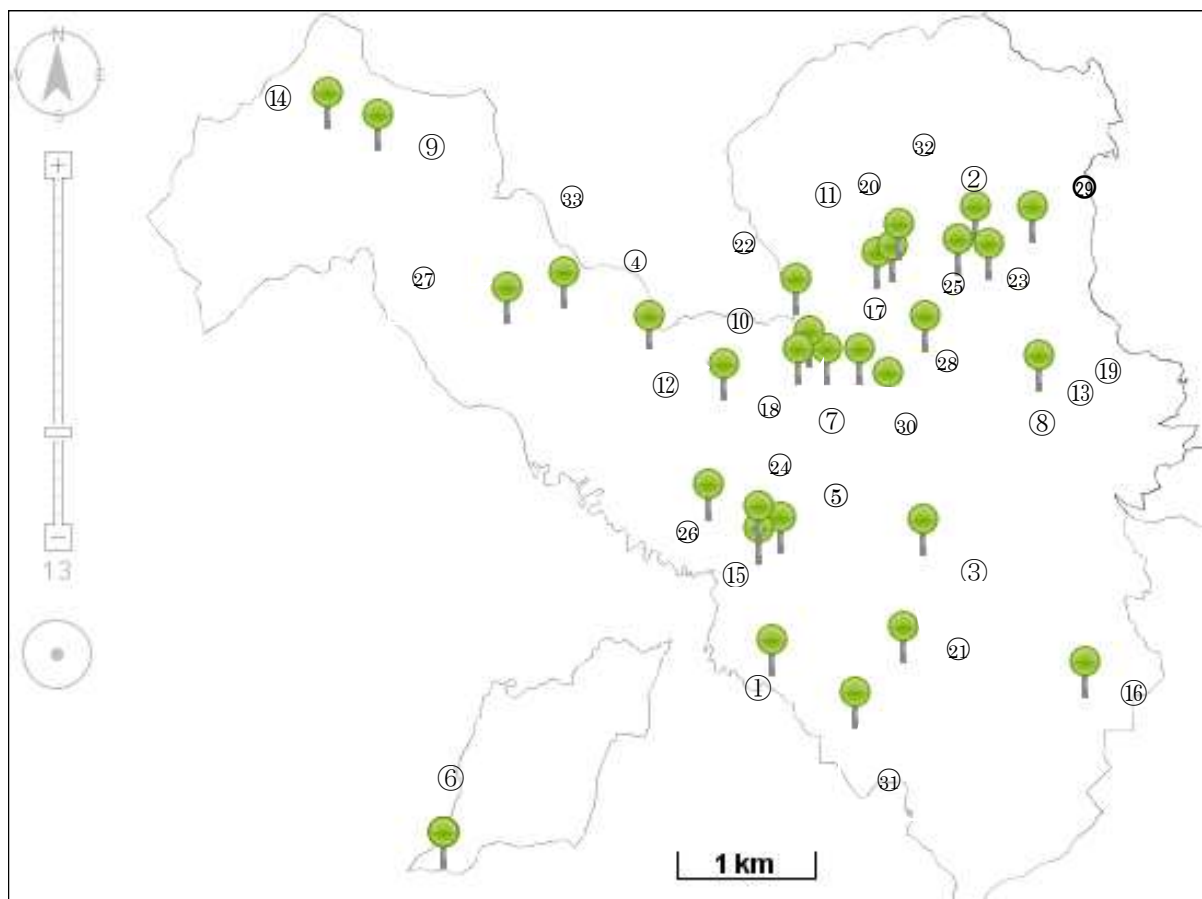
麻生区保育所の所在地をみると、麻生区内各駅（柿生駅、新百合ヶ丘駅、百合丘駅）の近くに保育所が集中していることが分かる。

麻生区の施設数及び定員

(単位:所、人)

公設公営		民設民営		合計	
施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
3	300	30	2,210	33	2,510

麻生区保育所の所在地



麻生区の認可保育所一覧

麻生区の認可保育所		
	保育所名称	住所
1	上麻生保育園	上麻生7丁目2-3
2	高石保育園	高石1丁目14-15
3	白山保育園	白山4丁目2-1
4	社会福祉法人横浜悠久会白鳥保育園	白鳥1丁目17-2
5	柿生保育園	上麻生5丁目23-1
6	すぎのこ保育園	岡上1丁目15-6
7	あさのみ保育園	上麻生3丁目22-14
8	保育園キディ百合丘.川崎	百合ヶ丘1丁目16サンラフレ百合丘7-201
9	はるひ野保育園	はるひ野2丁目7-1
10	木下の保育園新百合ヶ丘	古沢4-3コザワビル2階
11	小学館アカデミー新ゆり山手保育園	万福寺4丁目19プライムアリーナ新百合ヶ丘1.2階
12	五月台ルミナス保育園	五力田3丁目18-3
13	至誠館ゆりがおか保育園	百合ヶ丘1丁目18-4
14	くろかわのぞみ保育園	はるひ野4丁目7-1
15	アスク柿生保育園	上麻生5丁目40-4
16	にじのそら虹ヶ丘保育園	虹ヶ丘2丁目2-20
17	クレアナーサリー新百合ヶ丘	上麻生3丁目1-2
18	天才キッズクラブ楽学館古沢園	古沢8丁目1
19	天才キッズクラブ楽学館百合ヶ丘園	百合ヶ丘1丁目16-16
20	天才キッズクラブ楽学館万福寺園	万福寺4丁目9-1サンヒル.コザワ1F
21	王禅寺しらゆり保育園	王禅寺東5丁目3-53
22	アスク新百合ヶ丘保育園	古沢197-6
23	百合丘ルミナス保育園	百合丘1丁目19-2
24	柿生ルミナス保育園	片平2丁目30-1
25	あい.あい保育園百合ヶ丘園	万福寺4丁目1-3
26	くりの実保育園	片平4丁目1-30
27	アイン栗平保育園	栗木台1丁目1-16
28	天才キッズクラブ楽学館保育園	上麻生1丁目3-9新百合ヶ丘KIビル2階
29	ポピンズナーサリースクール百合丘	百合丘1丁目24-9
30	つくしんぼ保育園	上麻生3丁目3-11
31	はじめの一步保育園	上麻生7丁目41-5
32	麻生ゆりのき保育園	千代ヶ丘1丁目17-2
33	ぶれすと白鳥ほいくえん	白鳥3丁目5-1

## 7 児童虐待相談・通告の状況

麻生区の児童虐待相談・通告の受付件数をみると、平成27年は 189件で前年比 18件（9.52%）減少しましたが、平成28年度には 282件と 93件（49.20%）となり、以降は増加に転じ、平成29年度は 318件で 36件（12.77%）増、平成30年度は 439件で 121件（38.05%）増、令和元年度は 515件で 76件（17.31%）増、令和2年度は 705件と 190件（36.89%）増となり、増加傾向が継続しており、5年間で 3.73倍に増加している。

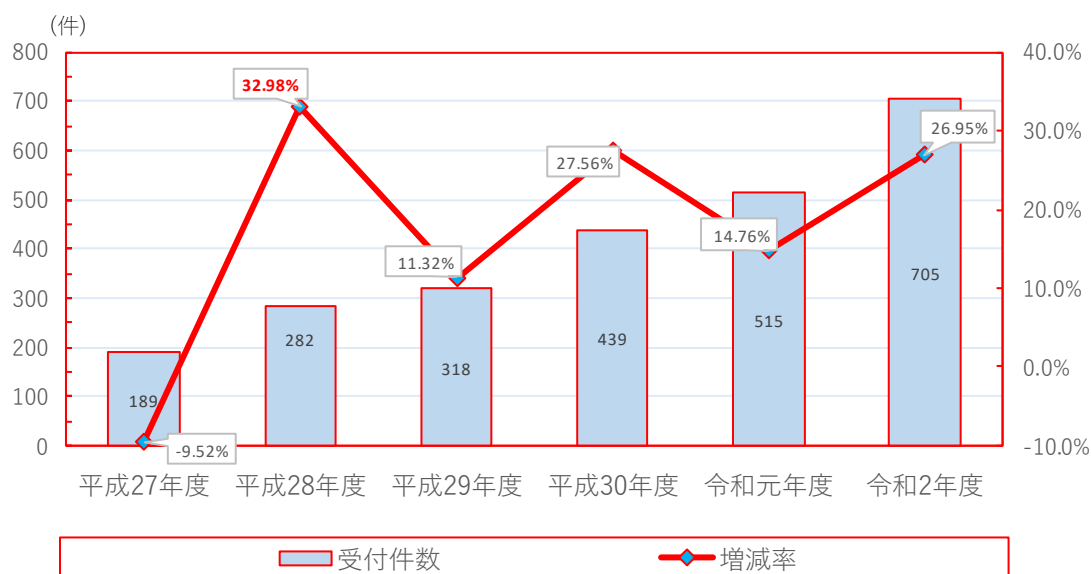
市全体の児童虐待相談・通告の受付件数をみると、平成27年は 2,534件で前年比 144件（6.03%）と増加し、平成28年度には 2,875件と 341件（13.46%）増と、平成29年度は 3,263件で 388件（13.50%）増、平成30年度は 4,134件で 871件（26.69%）増、令和元年度は 4,506件で 372件（9.00%）増、令和2年度は 5,557件と 1,051件（23.32%）増となり、増加傾向が継続しており、5年間で 2.19倍に増加している。

区別の児童虐待相談・通告の受付件数（区役所・児童相談所の合計）

区 分	全 市	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	その他※
平成27年度	2,534	673	357	332	334	312	325	189	12
平成28年度	2,875	781	382	429	383	323	288	282	7
平成29年度	3,263	758	324	431	518	578	317	318	19
平成30年度	4,134	835	491	560	600	627	541	439	41
令和元年度	4,506	1,031	525	524	670	700	513	515	28
令和2年度	5,557	1,179	619	706	703	940	637	705	68
構成比(%)	100.00%	21.22%	11.14%	12.70%	12.65%	16.92%	11.46%	12.69%	1.22%

※ 市内3か所の児童相談所と7区役所において年度内に受付けた児童虐待相談・通告件数の集計結果である。  
 ※ その他は初期調査により、管轄区外に居住していることが確認された件数である。

麻生区の児童虐待相談・通告の受付件数及び増減率の推移



区別の児童虐待相談・通告の受付件数をみると、平成27年度以降、他区と比べて川崎区が多く、令和元年度には 1,000件を上回るなど、増加傾向が続いている。

各年度の受付件数をみると、令和元年度で最も多いのは川崎区の 1,031件で、次いで宮前区が 700件、高津区が 670件の順で、最も少ないのは多摩区の 513件で、次いで麻生区が 515件、中原区が524件の順となっている。また、令和2年度で最も多いのは川崎区の 1,179件で、次いで宮前区が 940件、中原区の 706件の順で、最も少ないのは幸区の 619件で、次いで多摩区が 637件、高津区が703件の順となっており、麻生区は 190件(36.89%)増加し、705件となっている。

区別の児童虐待相談・通告件数及び構成比の状況（令和2年度）



# 【参考】 児童虐待の虐待種別件数の推移

区 分		総 数	身体的虐待	ネグレクト	性的虐待	心理的虐待
市 全 体	平成27年度	2,534	570	732	25	1,207
	平成28年度	2,875	616	784	28	1,447
	平成29年度	3,263	614	966	17	1,666
	平成30年度	4,134	787	1,071	32	2,244
	令和元年度	4,506	877	1,103	23	2,503
	令和2年度	5,557	1,055	1,584	40	2,878
区 役 所	平成27年度	614	133	317	6	158
	平成28年度	741	143	382	6	210
	平成29年度	895	165	452	5	273
	平成30年度	1,071	214	504	8	345
	令和元年度	1,138	185	588	3	362
	令和2年度	1,824	277	1,013	10	524
児 童 相 談 所	平成27年度	1,920	437	415	19	1,049
	平成28年度	2,134	473	402	22	1,237
	平成29年度	2,368	449	514	12	1,393
	平成30年度	3,063	573	567	24	1,899
	令和元年度	3,368	692	515	20	2,141
	令和2年度	3,733	778	571	30	2,354

## 8 障害者の状況

麻生区の障害者数の推移をみると、身体障害者(身体障害者手帳所持者)、知的障害者(療育手帳所持者)、精神障害者(精神障害者保健福祉手帳所持者)のいずれも増加傾向が継続しており、平成26年の 5,732人に対し、令和2年は 6,909人で6年間で 1,177人、20.53%増加している。

障害種別ごとにみると、身体障害者は、平成26年の 3,861人に対し、令和2年は 4,108人で、6年間で 247人、6.40%増加しており、内訳をみると、18歳未満は、平成26年の 126人に対し、令和2年には 127人となり 18歳以上は、平成26年の 3,735人に対し、令和2年には 3,981人となり 246人、6.59%増加している。

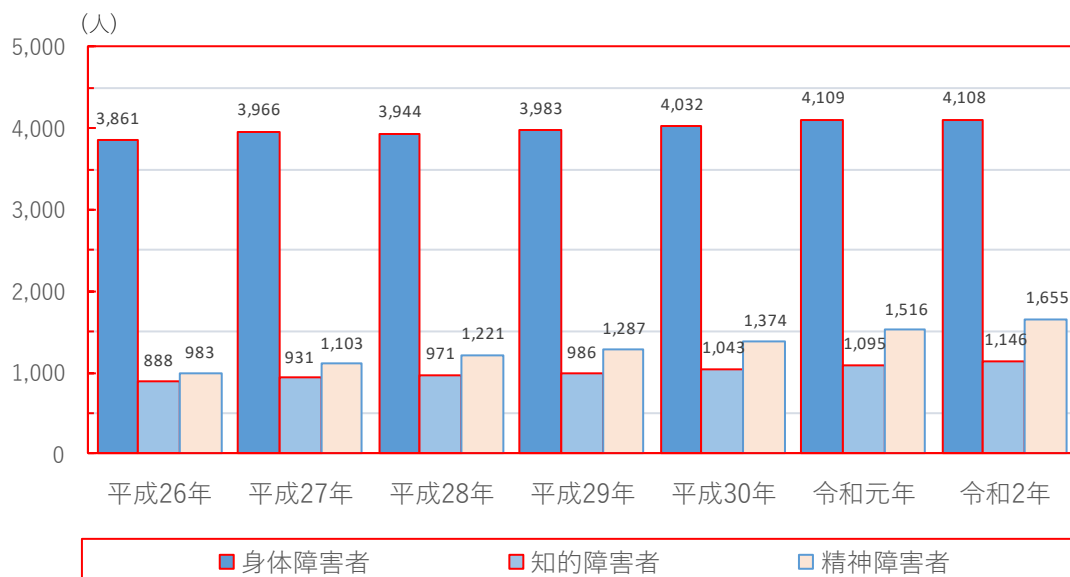
知的障害者は、平成26年の 888人に対し、令和2年には 1,146人となり6年間で 258人、29.05%増加しており、内訳をみると、18歳未満は、平成26年の 338人に対し、令和2年には 379人となり 41人、12.13%増加し、18歳以上は、平成26年の 550人に対し、令和2年には 767人となり 217人、39.45%増と大幅に増加している。

精神障害者は、平成26年の 983人に対し、令和2年には 1,655人となり6年間で 672人、68.36%増と3障害のうち最も増加幅が大きくなっている。

麻生区の障害者数の推移（各年 3 月31日現在）

区 分	総 数	身体障害者			知的障害者			精神障害者
		計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	
平成26年	5,732	3,861	126	3,735	888	338	550	983
平成27年	6,000	3,966	128	3,838	931	348	583	1,103
平成28年	6,136	3,944	125	3,819	971	342	629	1,221
平成29年	6,256	3,983	127	3,856	986	354	632	1,287
平成30年	6,449	4,032	119	3,913	1,043	362	681	1,374
令和元年	6,720	4,109	125	3,984	1,095	367	728	1,516
令和2年	6,909	4,108	127	3,981	1,146	379	767	1,655

麻生区の障害者数の推移（各年 3 月31日現在）



市全体の障害者数をみると、令和2年は 62,498人で、前年比 1,733人、2.85%増加している。  
内訳をみると、身体障害者は 37,579人で、前年比 250人、0.66%増、知的障害者は 10,977人で、同 448人、4.25%増、精神障害者は 13,942人で、同 1,035人、8.01%増となっている。

区別に令和2年と令和元年の障害者数を比べると、高津区は 9,503人で前年比 337人、3.68%増、宮前区は9,415人で334人、3.68%増と、共に増加率が高く、次いで麻生区が 6,909人で 189人、2.81%増となっている。また、構成比をみると、川崎区の 18.53%が最も多く、次いで高津区が 15.21%、宮前区が 15.06%の順となっており、麻生区は 11.05%と最も少なくなっている。

障害種別に比べると、身体障害者数は高津区が 5,537人で、前年比 114人、2.10%増と最も増加率が高く、次いで宮前区が 5,490人で 64人、1.18%増、川崎区が 7,360人で 61人、0.84%増の順となっている。また、構成比をみると、川崎区の 19.59%が最も多く、次いで高津区の 14.73%、宮前区の 14.61%の順となっており、麻生区は 10.93%で最も少なくなっている。

知的障害者数をみると、高津区が 1,802人で、前年比 93人、5.44%増と最も増加率が高く、次いで宮前区が 1,770人で 84人、4.98%増、麻生区が 1,146人で 51人、4.66%増の順となっている。また、構成比をみると、川崎区の 17.89%が最も多く、次いで高津区の 16.42%、宮前区の 16.12%の順となっており、麻生区は 10.44%で最も少なくなっている。

精神障害者数をみると、宮前区が 2,155人で、前年比 186人、9.45%増と最も増加率が高く、次いで麻生区が 1,655人で 139人 9.17%増、幸区が 1,613人で 121人、8.11%増の順となっている。また、構成比をみると、川崎区の 16.21%が最も多く、次いで多摩区の 15.94%、高津区の 15.52%の順となっており、麻生区は 11.87%で、幸区の 11.57%に次いで2番目に少なくなっている。

令和2年と令和元年との障害者数の比較

区 分		総数	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
元	計	60,765	11,276	7,865	8,095	9,166	9,081	8,562	6,720
	身体	37,329	7,299	4,999	5,021	5,423	5,426	5,052	4,109
	知的	10,529	1,884	1,374	1,338	1,709	1,686	1,443	1,095
	精神	12,907	2,093	1,492	1,736	2,034	1,969	2,067	1,516
2	計	62,498	11,584	8,063	8,265	9,503	9,415	8,759	6,909
	増減率%	2.85%	2.73%	2.52%	2.10%	3.68%	3.68%	2.30%	2.81%
	構成比%	100.00%	18.53%	12.90%	13.22%	15.21%	15.06%	14.01%	11.05%
	身体	37,579	7,360	5,024	5,029	5,537	5,490	5,031	4,108
	増減率%	0.67%	0.84%	0.50%	0.16%	2.10%	1.18%	-0.42%	-0.02%
	構成比%	100.00%	19.59%	13.37%	13.38%	14.73%	14.61%	13.39%	10.93%
	知的	10,977	1,964	1,426	1,363	1,802	1,770	1,506	1,146
	増減率%	4.25%	4.25%	3.78%	1.87%	5.44%	4.98%	4.37%	4.66%
	構成比%	100.00%	17.89%	12.99%	12.42%	16.42%	16.12%	13.72%	10.44%
	精神	13,942	2,260	1,613	1,873	2,164	2,155	2,222	1,655
	増減率%	8.02%	7.98%	8.11%	7.89%	6.39%	9.45%	7.50%	9.17%
	構成比%	100.00%	16.21%	11.57%	13.43%	15.52%	15.46%	15.94%	11.87%

区別の障害者手帳所持者数の状況（令和2年3月31日現在）

区 分	総 数	身体障害者			知的障害者			精神障害者
		計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	
全 市	62,498	37,579	920	36,659	10,977	3,799	7,178	13,942
川崎区	11,584	7,360	132	7,228	1,964	819	1,145	2,260
幸 区	8,063	5,024	99	4,925	1,426	521	905	1,613
中原区	8,265	5,029	147	4,882	1,363	487	876	1,873
高津区	9,503	5,537	141	5,396	1,802	586	1,216	2,164
宮前区	9,415	5,490	168	5,322	1,770	572	1,198	2,155
多摩区	8,759	5,031	106	4,925	1,506	435	1,071	2,222
麻生区	6,909	4,108	127	3,981	1,146	379	767	1,655



## 9 介護保険の利用状況

麻生区における介護保険の利用状況をみると、要介護認定者は、平成26(2014)年の 5,728人以降おおむね200～400人の増加を続け、令和2（2021）年は 7,565人と、6年間で 1,837人、32.07%増加している。

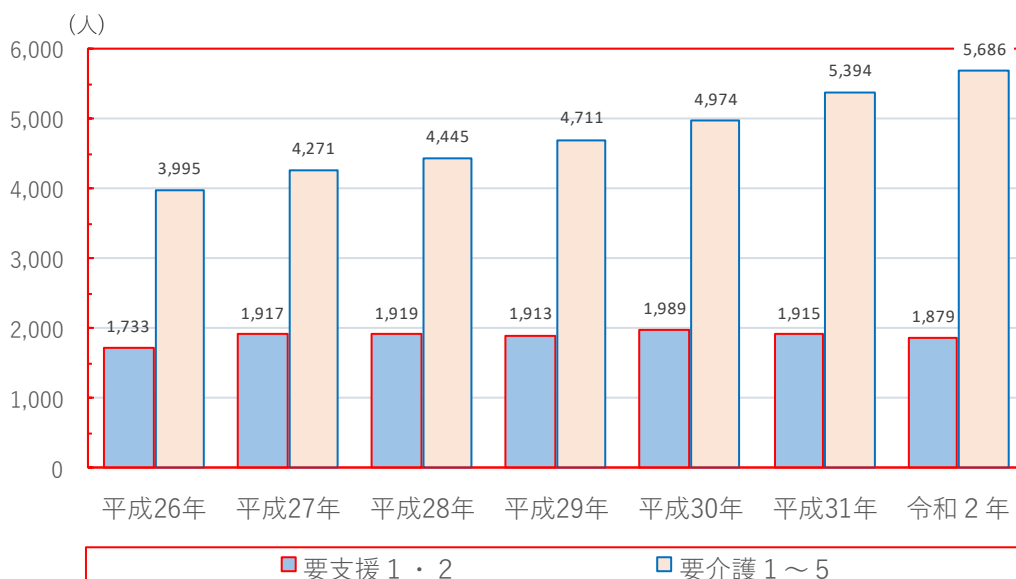
認定区分別にみると、要支援1・2は、平成26年が 1,733人で、令和2年には 1,879人となり 6年間で 146人、8.42%の増加に対し、要介護1～5は、平成26年が 3,995人で、令和2年には 5,686人となり 1,691人、42.33%増加している。

介護度別に6年間の増減率をみると、最も高いのは要介護2で 573人、71.27%増、次いで要介護3の 335人、55.28%増、要介護4の 296人、48.60%増の順となっており、唯一、要支援1のみが 26人、2.65%の減少となっている。また、令和2年の構成比をみると、最も高いのは要介護1の 1,793人で構成比 23.70%、次いで要介護2が 1,377人で 18.20%、要支援1が 954人で 12.61%の順となっている。

麻生区の要支援・要介護認定者数の推移（各年3月31日現在）

区 分	総 数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
平成26年	5,728	980	753	1,395	804	606	609	581
平成27年	6,188	1,044	873	1,383	897	701	633	657
平成28年	6,364	977	942	1,399	988	754	703	601
平成29年	6,624	917	996	1,408	1,131	811	764	597
平成30年	6,963	925	1,064	1,472	1,209	918	773	602
平成31年	7,309	931	984	1,680	1,334	913	822	645
令和2年	7,565	954	925	1,793	1,377	941	905	670

麻生区の要支援・要介護認定者数の推移（各年3月31日現在）



市全体の要支援・要介護認定者数は、令和2年3月31日現在 58,314人で、要介護1が 12,615人(構成比 21.63%)で最も多く、次いで要介護2の 10,377人(同 17.80%)、要支援2の 7,876人(同 13.51%)の順となっており、要介護1と2で全体の 39.43%を占めている。

区別に認定者数をみると、最も多いのは川崎区で 11,167人(構成比 19.15%)、次いで宮前区の 8,453人(同 14.50%)、高津区の 8,286人(同 14.21%)の順となっており、麻生区は 7,565人(同 12.97%)で5番目に多くなっている。

認定区分別にみると、要支援(1・2)が最も多いのは川崎区の 2,582人(構成比 16.63%)で、次いで多摩区の 2,424人(同 15.62%)、高津区の 2,266人(同 14.60%)の順となっており、麻生区は 1,879人(同 12.10%)となり、7区の中で1番少なくなっている。

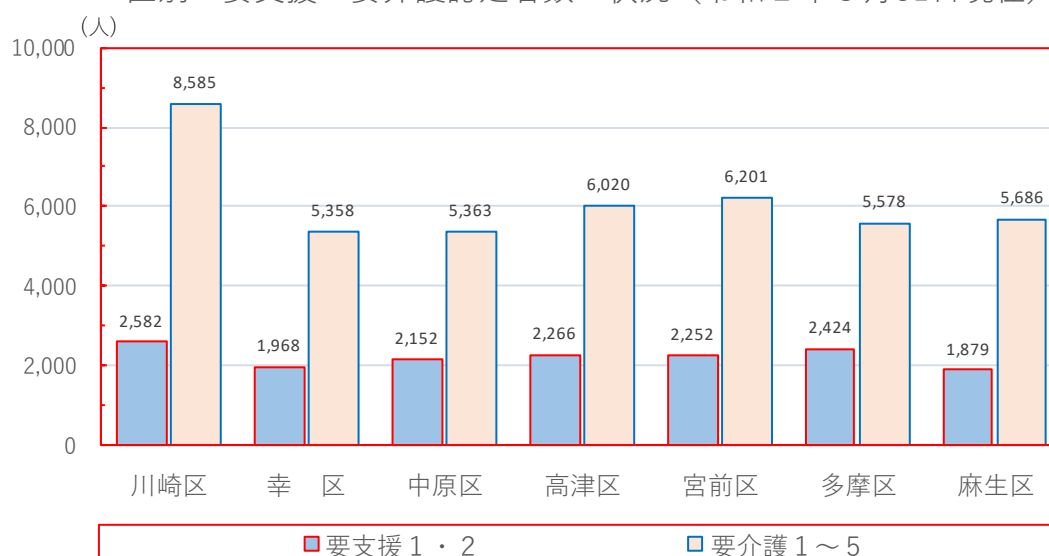
また、要介護(1～5)が最も多いのは川崎区の 8,585人(構成比 20.06%)で、次いで宮前区の 6,201人(同 14.49%)、高津区の 6,020人(同 14.07%)、麻生区の 5,686人(13.29%)の順になっています。

また、介護度別に認定者数をみると、宮前区を除き6区とも要介護1が最も多く、次いで要介護2の順となっている。

区別の要支援・要介護認定者数（令和2年3月31日現在）

区 分	総 数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全 市	58,314	7,647	7,876	12,615	10,377	7,458	7,004	5,337
川崎区	11,167	1,320	1,262	2,533	2,072	1,518	1,400	1,062
幸 区	7,326	1,116	852	1,659	1,187	885	926	701
中原区	7,515	970	1,182	1,467	1,276	926	952	742
高津区	8,286	1,103	1,163	1,758	1,556	1,069	884	753
宮前区	8,453	947	1,305	1,616	1,638	1,184	1,024	739
多摩区	8,002	1,237	1,187	1,789	1,271	935	913	670
麻生区	7,565	954	925	1,793	1,377	941	905	670

区別の要支援・要介護認定者数の状況（令和2年3月31日現在）



## 10 ひとり暮らし高齢者の状況

麻生区における高齢単身者数の推移をみると、平成17年は 3,316人で、令和2年には 7,586人へと15年間で 4,270人、2.3倍と増加しており、高齢者人口に占める割合も平成17年の 13.3%から令和2年には 17.8%へと 4.5ポイント増加している。

市全体の高齢単身者数は、平成17年は 32,877人で、令和2年には 66,075人へと15年間で 33,198人増加しており、高齢者人口に占める割合も平成17年の 16.9%から令和2年には21.9%と5ポイント増加している。

区別に高齢単身者数をみると、平成17年の時点で最も多いのは川崎区の 7,685人で、次いで中原区の 5,019人、幸区の 4,674人の順となっており、最も少ないのは麻生区の 3,316人となっている。

また、令和2年の時点で高齢単身者が最も多いのは川崎区の 13,385人で、平成17年比 5,700人増、次いで宮前区の 9,388人で同 5,715人増、中原区の 9,266人で同 4,247人増の順となっており、最も少ないのは麻生区の 7,586人で同 4,270人増、次いで幸区の 8,406人で同 3,732人増の順となっている。

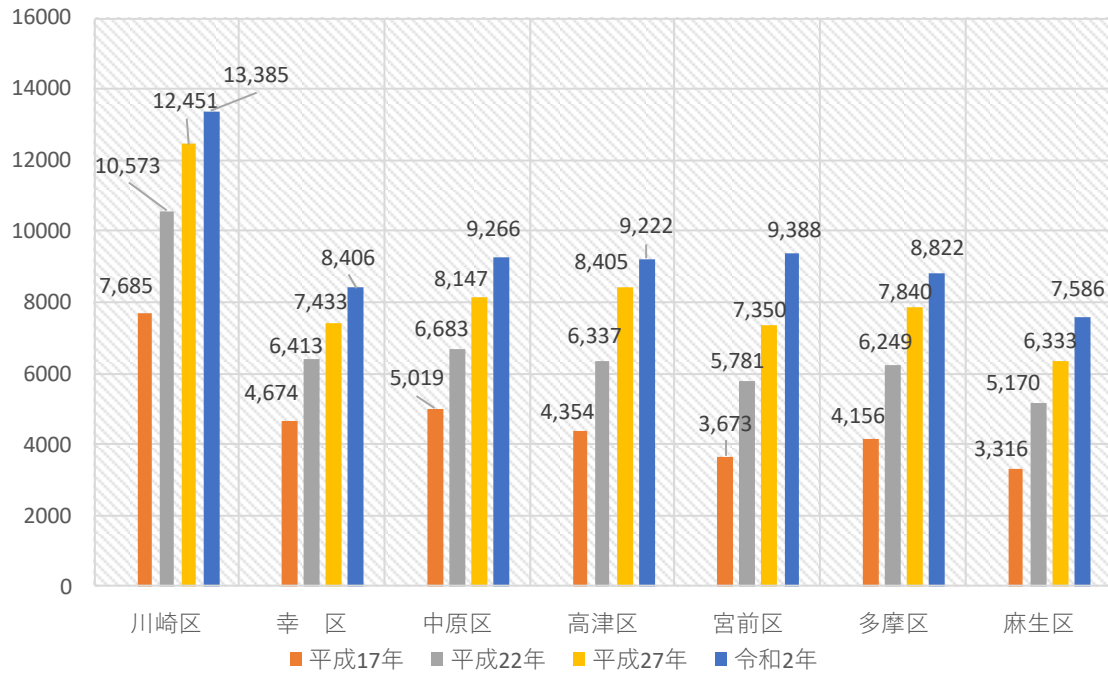
区別の高齢者人口に占める高齢単身者の推移

区 分	平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	高齢者数	単身者数	高齢者数	単身者数	高齢者数	単身者数	高齢者数	単身者数
全 市	194,176	32,877	237,298	47,206	279,482	57,959	301,151	66,075
川崎区	37,323	7,685	43,138	10,573	48,348	12,451	49,709	13,385
幸 区	25,108	4,674	29,601	6,413	34,886	7,433	36,643	8,406
中原区	27,662	5,019	31,946	6,683	36,871	8,147	39,332	9,266
高津区	25,564	4,354	32,224	6,337	39,163	8,405	43,090	9,222
宮前区	26,551	3,673	34,873	5,781	41,817	7,350	47,043	9,388
多摩区	27,078	4,156	33,520	6,249	39,538	7,840	42,661	8,822
麻生区	24,890	3,316	31,996	5,170	38,859	6,333	42,673	7,586

(高齢単身者の割合の推移)

区 分	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
全 市	16.9%	19.9%	20.7%	21.9%
川崎区	20.6%	24.5%	25.8%	26.9%
幸 区	18.6%	21.7%	21.3%	22.9%
中原区	18.1%	20.9%	22.1%	23.6%
高津区	17.0%	19.7%	21.5%	21.4%
宮前区	13.8%	16.6%	17.6%	20.0%
多摩区	15.3%	18.6%	19.8%	20.7%
麻生区	13.3%	16.2%	16.3%	17.8%

区別の高齢単身者の推移（各年10月1日現在）



区別の年齢（2区分）別高齢単身者の推移

区 分	平成22年			平成27年			令和2年		
	65歳以上	65歳以上 74歳以下	75歳以上	65歳以上	65歳以上 74歳以下	75歳以上	65歳以上	65歳以上 74歳以下	75歳以上
全 市	47,206	24,357	22,849	57,959	28,867	29,092	66,075	30,255	35,820
川崎区	10,573	5,791	4,782	12,451	6,616	5,835	13,385	6,617	6,768
幸 区	6,413	3,326	3,087	7,433	3,628	3,805	8,406	3,751	4,655
中原区	6,683	3,341	3,342	8,147	4,110	4,037	9,266	4,438	4,828
高津区	6,337	3,233	3,104	8,405	4,239	4,166	9,222	4,369	4,853
宮前区	5,781	3,093	2,688	7,350	1,461	3,673	9,388	4,141	5,247
多摩区	6,249	3,240	3,009	7,840	1,994	4,037	8,822	3,970	4,852
麻生区	5,170	2,333	2,837	6,333	2,794	3,539	7,586	2,969	4,617

（75歳以上男性単身者の割合の推移）

区 分	平成22年	平成27年	令和2年
全 市	48.4%	50.2%	54.2%
川崎区	34.3%	34.3%	50.6%
幸 区	56.3%	60.0%	55.4%
中原区	45.2%	46.9%	50.6%
高津区	30.3%	31.0%	50.5%
宮前区	57.9%	62.1%	72.1%
多摩区	48.1%	51.2%	55.4%
麻生区	34.1%	36.3%	60.9%

## 1 1 高齢夫婦世帯の状況

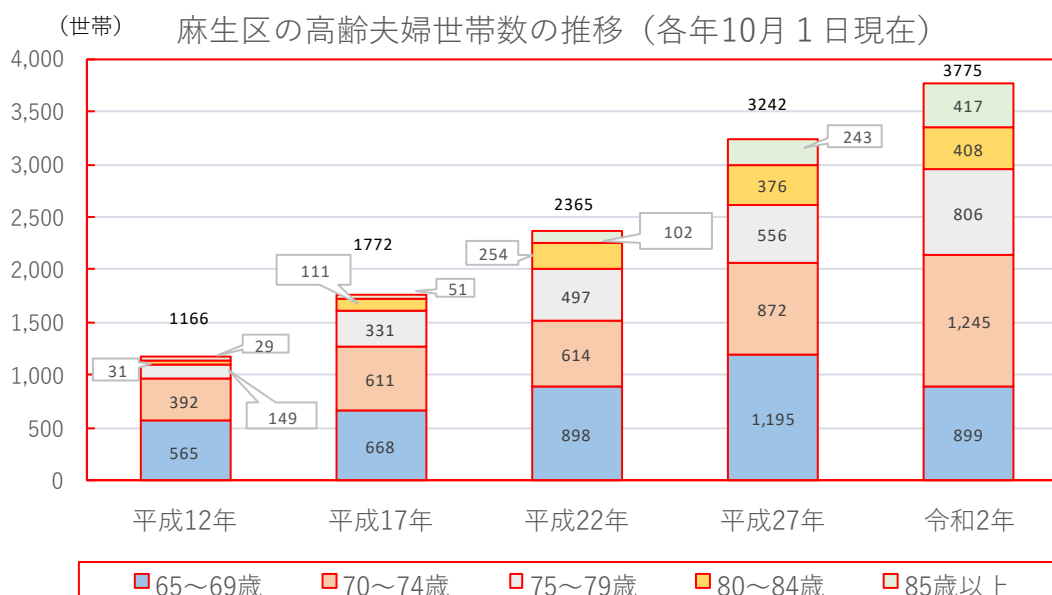
麻生区における高齢夫婦世帯数の推移をみると、平成12年は 3,124世帯で、平成17年には 4,531世帯と 1,407世帯、45.04%増、平成22年には 5,832世帯と 1,301世帯、28.71%増、平成27年には 7,400世帯と 1,568世帯、26.89%増、令和2年には 9,522世帯と 2,122世帯、28.68%増となっており、20年間で 6,398世帯増加し、3.05倍となっている。

また、高齢夫婦世帯のうち夫婦の年齢階級が同じ世帯数の推移をみると、65～69歳は平成12年で 565世帯、20年後の令和2年には 899世帯となり 334世帯、1.59倍に増加、70～74歳は平成12年で 392世帯、令和2年には 1,245世帯となり 853世帯、3.18倍に増加、75～79歳は平成12年で 149世帯、令和2年には 806世帯となり 657世帯、5.41倍に増加、80～84歳は平成12年で 31世帯、令和2年には408世帯となり 377世帯、13.16倍に増加、85歳以上は平成12年で 29世帯、令和2年には 417世帯となり 388世帯、14.38倍に増加しており、75歳以上の後期高齢者夫婦世帯が著しく増加している。

麻生区における高齢夫婦の年齢(5階級)別の世帯数をみると、令和2年では 9,522世帯のうち夫の年齢階級で最も多いのは70～74歳の 2,664世帯で、全体の27.98%を占めており、次いで75～79歳の 2,276世帯、65～69歳の 1,949世帯の順となっている。また、妻の年齢階級で最も多いのは70～74歳の 2,742世帯で、全体の28.8%を占めており、次いで65～69歳の 2,122世帯、75～79歳の 1,962世帯の順となっている。

麻生区の高齢夫婦世帯数の推移（各年10月1日現在）

区 分	総 数	うち夫婦の年齢階級が同じ世帯				
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
平成12年	3,124	565	392	149	31	29
平成17年	4,531	668	611	331	111	51
平成22年	5,832	898	614	497	254	102
平成27年	7,400	1,195	872	556	376	243
令和2年	9,522	899	1,245	806	408	417



麻生区の高齢夫婦世帯の状況（令和2年10月 1 日現在）

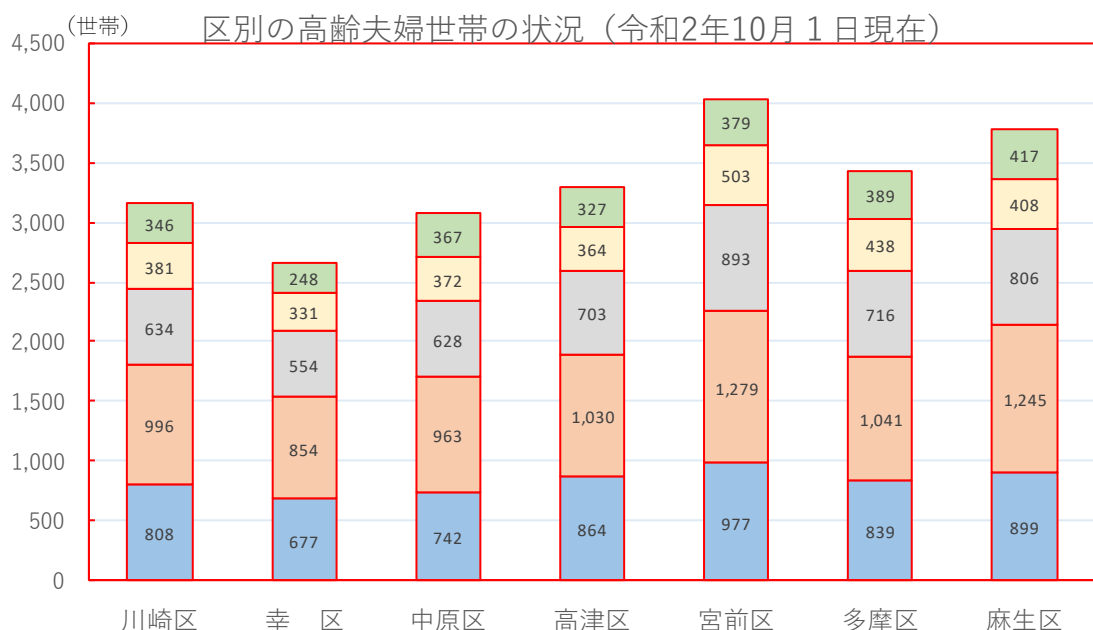
区 分 (5 歳階級)						
	総 数	妻が65～69歳	妻が70～74歳	妻が75～79歳	妻が80～84歳	妻が85歳以上
総 数	9,522	2,122	2,742	1,962	1,003	477
夫が65～69歳	1,949	899	122	23	3	-
70～74歳	2,664	1,026	1,245	114	10	3
75～79歳	2,276	175	1,176	806	71	11
80～84歳	1,540	17	188	871	408	46
85歳以上	1,093	5	11	148	511	417

区別に高齢夫婦の世帯数をみると、最も多いのは宮前区の 10,107世帯で、次いで麻生区の9,522世帯、多摩区の 8,473世帯の順となっており、北部3区で全体の 48.51%を占めている。

また、夫婦の年齢階級が同じ世帯をみると、65～69歳と70～74歳の2階級では宮前区が最も多く、次いで麻生区の順、75～79歳も宮前区が最も多く、次いで麻生区の順、80～84歳は宮前区、次いで多摩区の順、85歳以上は麻生区が最も多く、次いで多摩区の順となっている。

区別の高齢夫婦世帯の状況（令和2年10月 1 日現在）

区 分	総 数	うち夫婦の年齢階級が同じ世帯				
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
全 市	57,929	5,806	7,408	4,934	2,797	2,473
川崎区	7,911	808	996	634	381	346
幸 区	6,447	677	854	554	331	248
中原区	7,383	742	963	628	372	367
高津区	8,086	864	1,030	703	364	327
宮前区	10,107	977	1,279	893	503	379
多摩区	8,473	839	1,041	716	438	389
麻生区	9,522	899	1,245	806	408	417



## 1 2 老人クラブの状況

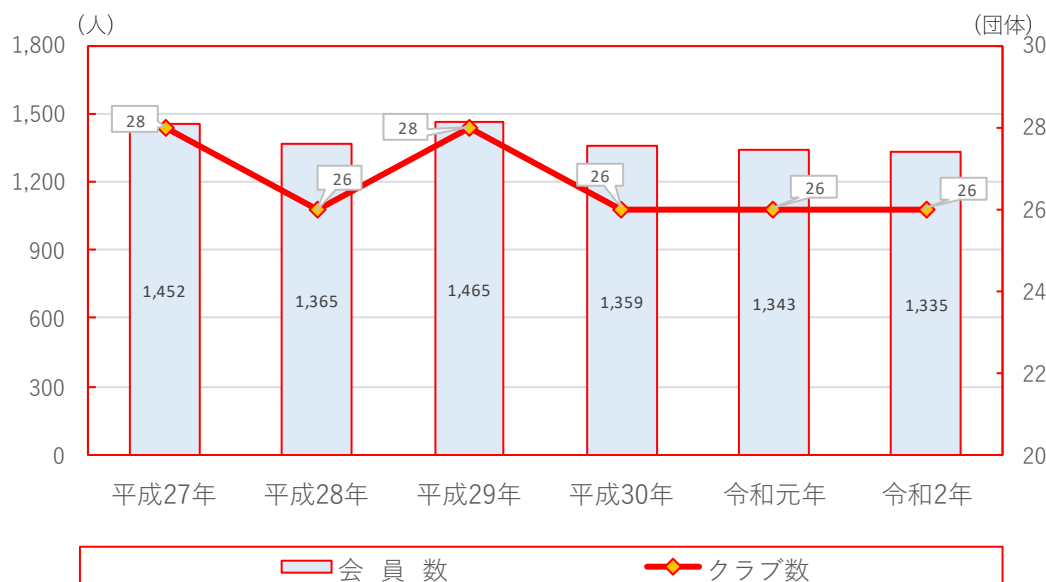
麻生区における老人クラブの会員数をみると、平成27年の 1,452人から令和2年には 1,335人へと、5年間で117人、8.06%減少しており、減少傾向が続いている。また、男女別の会員数をみると、男性は平成27年に 533人だったのに対して、令和2年には 457人となり 76人減少しており、女性は平成27年に 919人だったのに対して、令和2年には 878人となり 41人の減少となっている。

クラブ数は平成27年の28団体から令和2年には26団体へと、微減傾向が続いており、1クラブ平均会員数も平成27年の51.86人から令和2年には51.35人へと徐々に減少している。

麻生区の老人クラブの推移（各年 4 月 1 日現在）

区 分	クラブ数	会 員 数			1クラブ 平均会員数
		総 数	男	女	
平成27年	28	1,452	533	919	51.86
平成28年	26	1,365	497	868	52.50
平成29年	28	1,465	526	939	52.32
平成30年	26	1,359	474	885	52.27
令和元年	26	1,343	463	880	51.65
令和2年	26	1,335	457	878	51.35

麻生区の老人クラブの推移（各年 4 月 1 日現在）



市全体の老人クラブの会員数をみると、令和2年 4 月 1 日現在、クラブ数が 447団体、会員数は 21,651人（うち男性 7,506人、女性14,145人）であり、1クラブ平均会員数は 48.44人となっている。

区別にクラブ数をみると、最も多いのは川崎区で 160団体、次いで幸区が 72団体、多摩区が

60団体の順となっており、麻生区は 26団体で最も少なくなっている。

老人クラブの会員数をみると、最も多いのは川崎区の 6,798人、次いで幸区が 3,828人、多摩区が 3,243人の順となっており、麻生区は 1,335人で最も少なくなっている。また、男女別の会員数をみると、会員数が最も多い川崎区では男性が 2,232人で、次いで幸区が1,331人、多摩区が 1,156人となっており、麻生区は457人で最も少なくなっている。

また、1クラブあたりの平均会員数をみると、最も多いのは宮前区の 60.31人で、次いで多摩区が 54.05人、幸区が 53.17人の順となっており、麻生区は 51.35人で4番目となっている。

区別の老人クラブの状況（令和2年4月1日現在）

区 分	クラブ数	会 員 数			1クラブ 平均会員数
		総 数	男	女	
全 市	447	21,651	7,506	14,145	48.44
川崎区	160	6,798	2,232	4,566	42.49
幸 区	72	3,828	1,331	2,497	53.17
中原区	37	1,594	621	973	43.08
高津区	53	2,501	867	1,634	47.19
宮前区	39	2,352	842	1,510	60.31
多摩区	60	3,243	1,156	2,087	54.05
麻生区	26	1,335	457	878	51.35

区別の老人クラブの状況（令和2年4月1日現在）





### 1 3 町会・自治会の加入世帯の状況

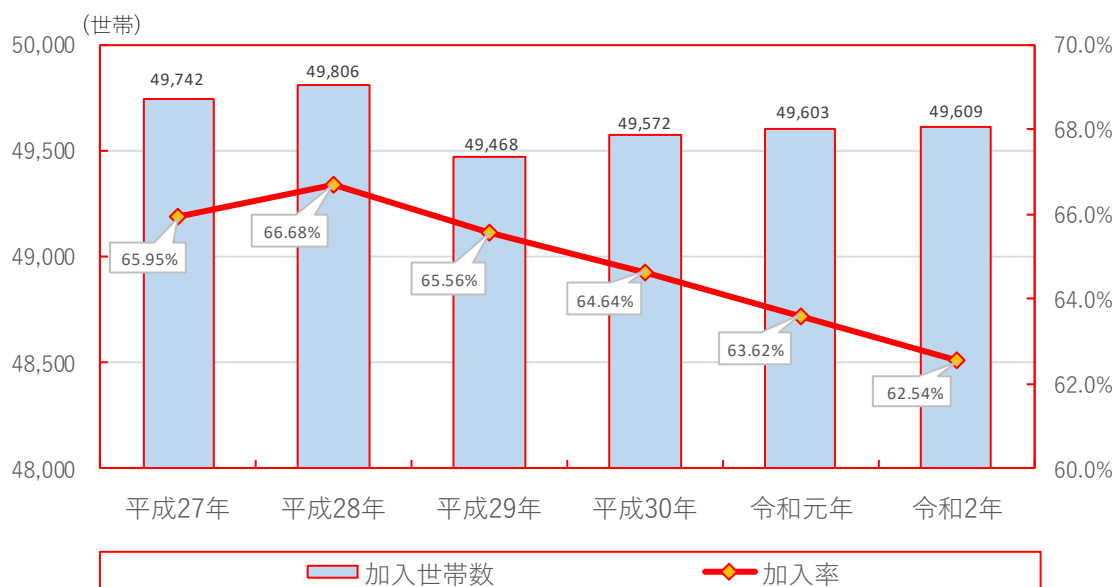
麻生区における町会・自治会の状況をみると、団体数は平成27年の 125団体から令和2年まで増減なく推移している中、総世帯数は平成27年の 75,425世帯から令和2年には 79,323世帯となり 3,898世帯、5.17%増加しているのに対し、加入世帯数は平成27年の 49,742世帯から令和2年には 49,609世帯となり 133世帯、0.27%の微減で、総世帯数の増加に反して、加入世帯数は少なくなっており、加入率は 3.41ポイント低下している。

また、1団体あたりの平均加入世帯数をみると、平成28年まで増加が続いていたが、平成29年は減少し、その後は微増が続いている。

麻生区の町会・自治会の加入状況の推移（各年4月1日現在）

	団体数	総世帯数	団体加入世帯数	総世帯の加入率	1団体平均加入世帯数
平成27年	125	75,425	49,742	65.95%	397.94
平成28年	125	74,694	49,806	66.68%	398.45
平成29年	125	75,459	49,468	65.56%	395.74
平成30年	125	76,684	49,572	64.64%	396.58
令和元年	125	77,973	49,603	63.62%	396.82
令和2年	125	79,323	49,609	62.54%	396.87

麻生区の町会・自治会の加入状況の推移（各年4月1日現在）



市全体の町会・自治会の状況をみると、令和2年4月1日現在、団体数が 650団体、団体加入世帯数は 440,622人であり、総世帯数746,752世帯のうち59.01%が加入しており、1団体平均加入世帯数は 677.88人となっている。

区別に町会・自治会の状況をみると、団体数が最も多いのは麻生区の 125団体で、次いで高津区が 108団体、多摩区が 100団体の順となっている。

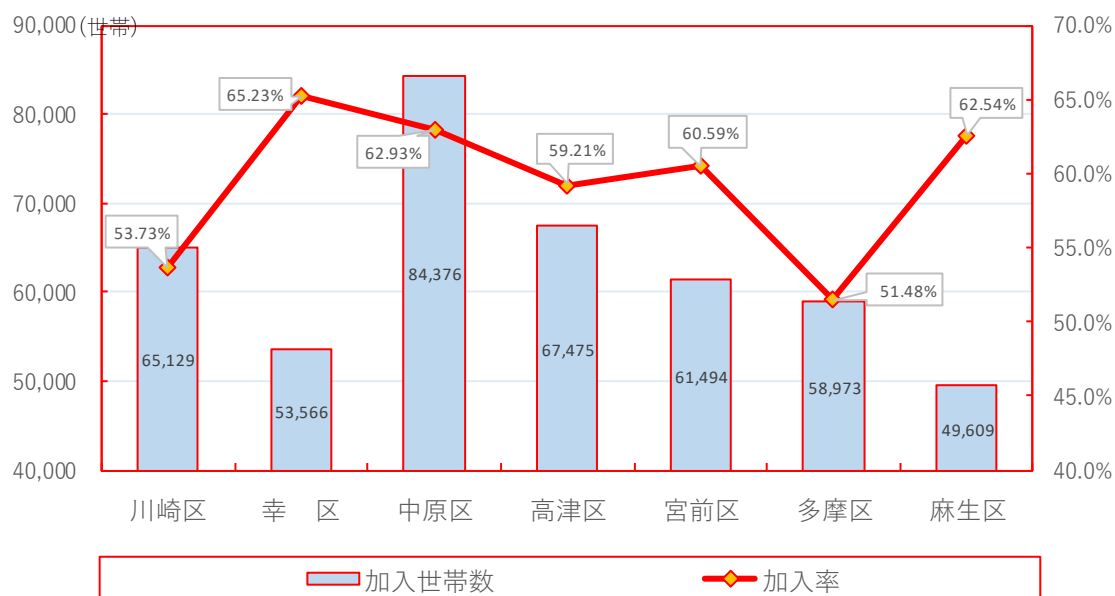
団体加入世帯数をみると、最も多いのは中原区の 84,376世帯で、次いで高津区が 67,475世帯、川崎区が 65,129世帯の順で、麻生区は 49,609世帯で最も少なくなっており、加入率が最も高いのは幸区の 65.23%で、次いで中原区が 62.93%、麻生区が 62.54%の順となっている。

1 団体あたりの平均加入世帯数をみると、最も多いのは中原区も 1,081.74世帯で、次いで宮前区が 878.49世帯、幸区が 754.45世帯の順となっており、麻生区は 396.87世帯で最も少なくなっている。

区別の町会・自治会の加入状況（令和 2 年 4 月 1 日現在）

	団体数	総世帯数	団体加入 世 帯 数	総世帯の 加 入 率	1 団体平均 加入世帯数
全 市	650	746,752	440,622	59.01%	677.88
川崎区	98	121,213	65,129	53.73%	664.58
幸 区	71	82,122	53,566	65.23%	754.45
中原区	78	134,086	84,376	62.93%	1,081.74
高津区	108	113,962	67,475	59.21%	624.77
宮前区	70	101,495	61,494	60.59%	878.49
多摩区	100	114,551	58,973	51.48%	589.73
麻生区	125	79,323	49,609	62.54%	396.87

区別の町会・自治会の加入状況（令和 2 年 4 月 1 日現在）



## 1 4 民生委員児童委員の状況

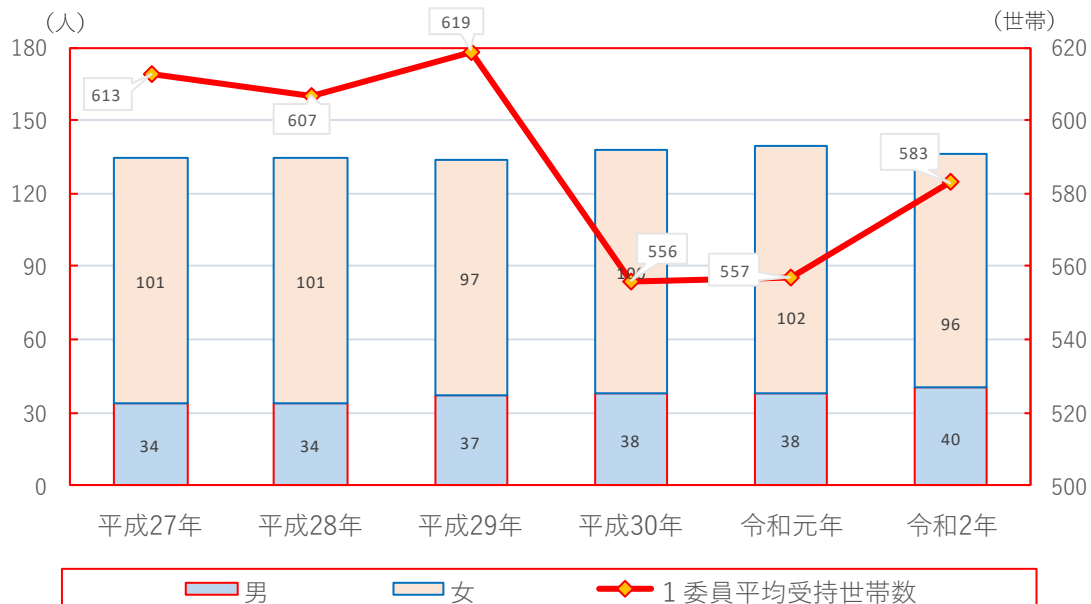
麻生区における民生委員児童委員の状況をみると、地区民生委員児童委員協議会数は平成4年以降6団体で、委員数は平成27年の135人から令和2年には136人となっており、男女別の委員数をみると、平成27年は男性が34人であったのに対し、令和2年には40人と6人増加している。

1委員あたりの平均受持世帯数をみると、平成27年の613世帯から平成29年には619世帯に増加していたが、平成30年に63世帯減の556世帯に減少し、令和元年は557世帯と横ばいとなっている。しかしながら令和2年は、再び583世帯と増加となった。

麻生区の民生委員児童委員の推移（各年4月1日現在）

区 分	民生委員 協議会数	委 員 数			1委員平均 受持世帯数
		総 数	男	女	
平成27年	6	135	34	101	613
平成28年	6	135	34	101	607
平成29年	6	134	37	97	619
平成30年	6	138	38	100	556
令和元年	6	140	38	102	557
令和2年	6	136	40	96	583

麻生区の民生委員児童委員の推移（各年4月1日現在）



市全体の民生委員児童委員の状況をみると、令和2年4月1日現在、地区民生委員児童委員協議会数は56団体、委員数は1,516人であり、男女別の構成比は男性が523人で、全体の1/3となっている。また、1委員あたりの平均受持世帯数は493世帯となっている。

区別に民生委員児童委員の状況をみると、協議会数は川崎区の10団体が最も多く、次いで中原区が9団体、幸区、宮前区及び多摩区が8団体となっており、麻生区は6団体で最も少なくなっている。

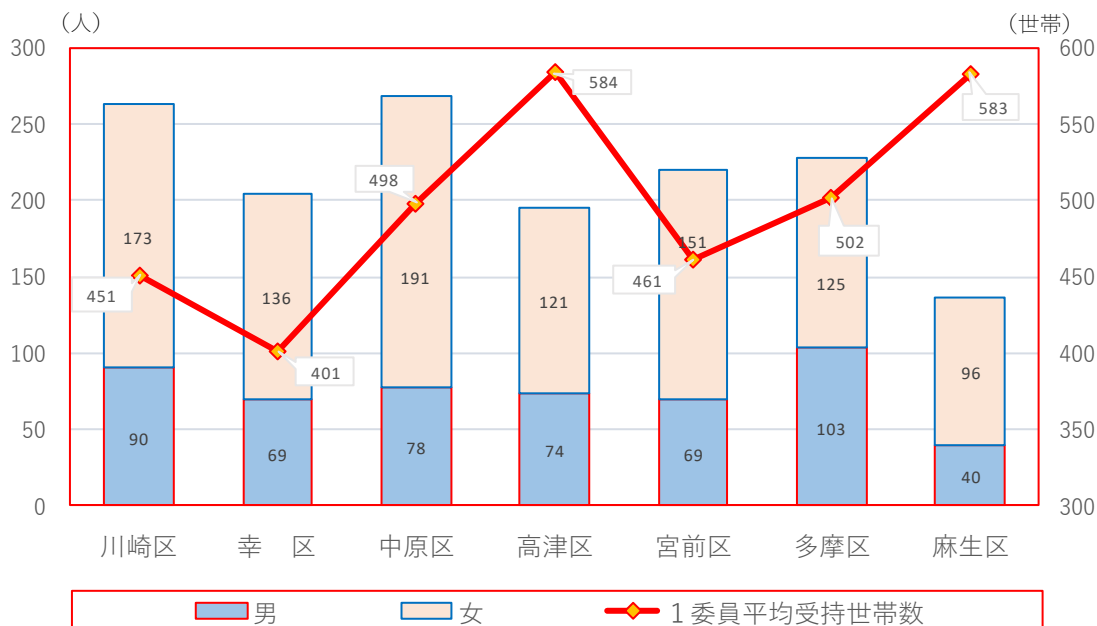
委員数が最も多いのは中原区の269人で、次いで川崎区が263人、多摩区が228人の順で、麻生区は136人と最も少なくなっている。また、男女別の会員数をみると、最も男性委員が多いのは多摩区の103人で、次いで川崎区が90人、中原区が78人の順で、麻生区は40人で最も少なくなっている。

1委員あたりの平均受持世帯数をみると、最も多いのは高津区の584世帯で、次いで麻生区が583世帯、多摩区が502世帯の順となっている。

区別の民生委員児童委員の状況（令和2年4月1日現在）

区 分	民生委員 協議会数	委 員 数			1 委員平均 受持世帯数
		総 数	男	女	
全 市	56	1,516	523	993	493
川崎区	10	263	90	173	451
幸 区	8	205	69	136	401
中原区	9	269	78	191	498
高津区	7	195	74	121	584
宮前区	8	220	69	151	461
多摩区	8	228	103	125	502
麻生区	6	136	40	96	583

区別の民生委員児童委員の状況（令和2年4月1日現在）

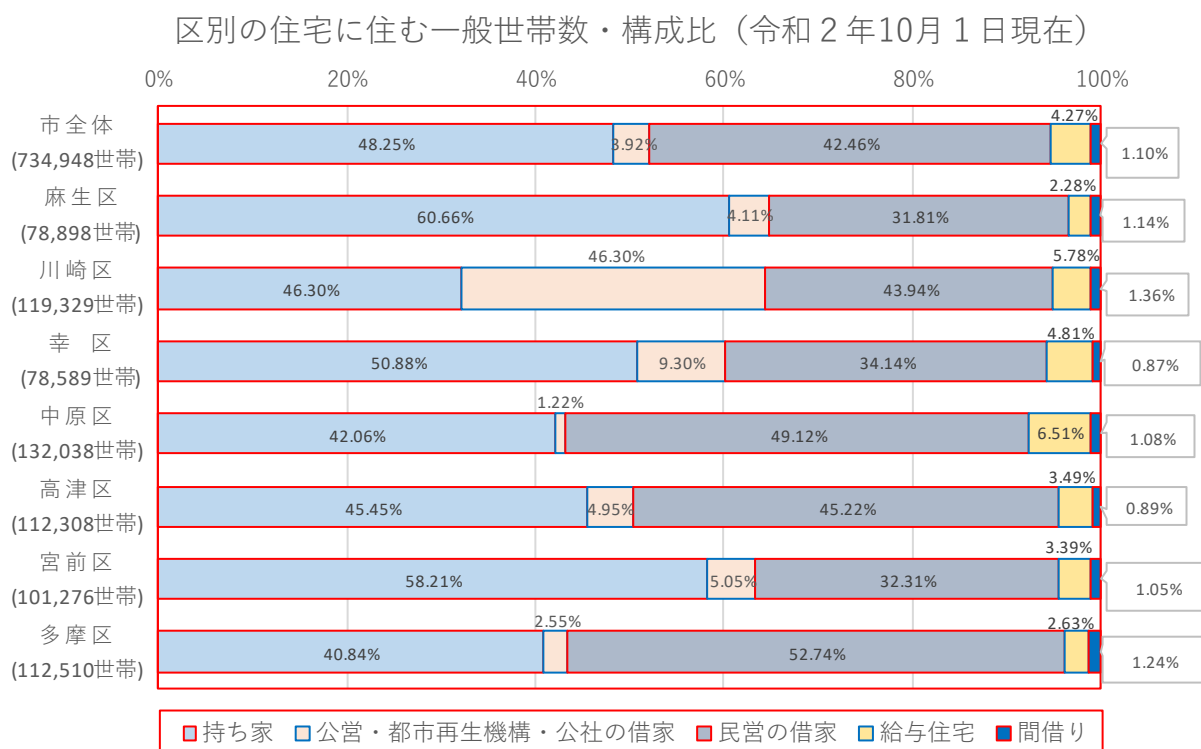


## 1 5 住まいの形態

本市の住宅に住む一般世帯数をみると、最も多いのは「持ち家」で全体の 48.25%を占めており、次いで「民営の借家」が 42.46%、「給与住宅」が 4.27%の順となっている。

区別にみると、「持ち家」比率が最も高いのは麻生区で 60.66%、次いで宮前区が 58.21%、幸区が50.88%の順となっており、この3区で5割を超えている。

「民営の借家」比率が最も高いのは多摩区で 52.74%、次いで中原区が 49.12%、高津区が 45.22%の順となっており、麻生区は 31.81%で最も低くなっている。



区別の住宅に住む一般世帯数・構成比（令和2年10月1日現在）

区 分	総 数	主 世 帯					間借り
		総 数	持ち家	公営公社 の借家	民営の借家	給与住宅	
全 市	734,948	726,869	354,581	28,827	312,066	31,395	8,079
構成比%	100.00%	98.90%	48.25%	3.92%	42.46%	4.27%	1.10%
川崎区	119,329	117,711	55,248	3,126	52,435	6,902	1,618
構成比%	100.00%	98.64%	46.30%	2.62%	43.94%	5.78%	1.36%
幸 区	78,589	77,905	39,985	7,307	26,829	3,784	684
構成比%	100.00%	99.13%	50.88%	9.30%	34.14%	4.81%	0.87%
中原区	132,038	130,610	55,535	1,612	64,863	8,600	1,428
構成比%	100.00%	98.92%	42.06%	1.22%	49.12%	6.51%	1.08%
高津区	112,308	111,310	51,047	5,557	50,788	3,918	998
構成比%	100.00%	99.11%	45.45%	4.95%	45.22%	3.49%	0.89%
宮前区	101,276	100,217	58,950	5,113	32,719	3,435	1,059
構成比%	100.00%	98.95%	58.21%	5.05%	32.31%	3.39%	1.05%
多摩区	112,510	111,117	45,953	2,869	59,335	2,960	1,393
構成比%	100.00%	98.76%	40.84%	2.55%	52.74%	2.63%	1.24%
麻生区	78,898	77,999	47,863	3,243	25,097	1,796	899
構成比%	100.00%	98.86%	60.66%	4.11%	31.81%	2.28%	1.14%

## 1 6 住宅の種類

本市の住宅の建て方をみると、最も多いのは「共同住宅」で全体の 73.05%を占めており、次いで「一戸建」が 24.69%、「長屋建」が 2.01%の順となっている。

区別にみると、「一戸建」の比率が最も高いのは麻生区で 42.25%、次いで宮前区が 28.98%、多摩区が24.46%の順となっている

「共同住宅」の比率が最も高いのは中原区で 80.53%、次いで高津区が 77.48%、幸区が76.24%の順となっており、麻生区は 53.89%で最も低くなっている。

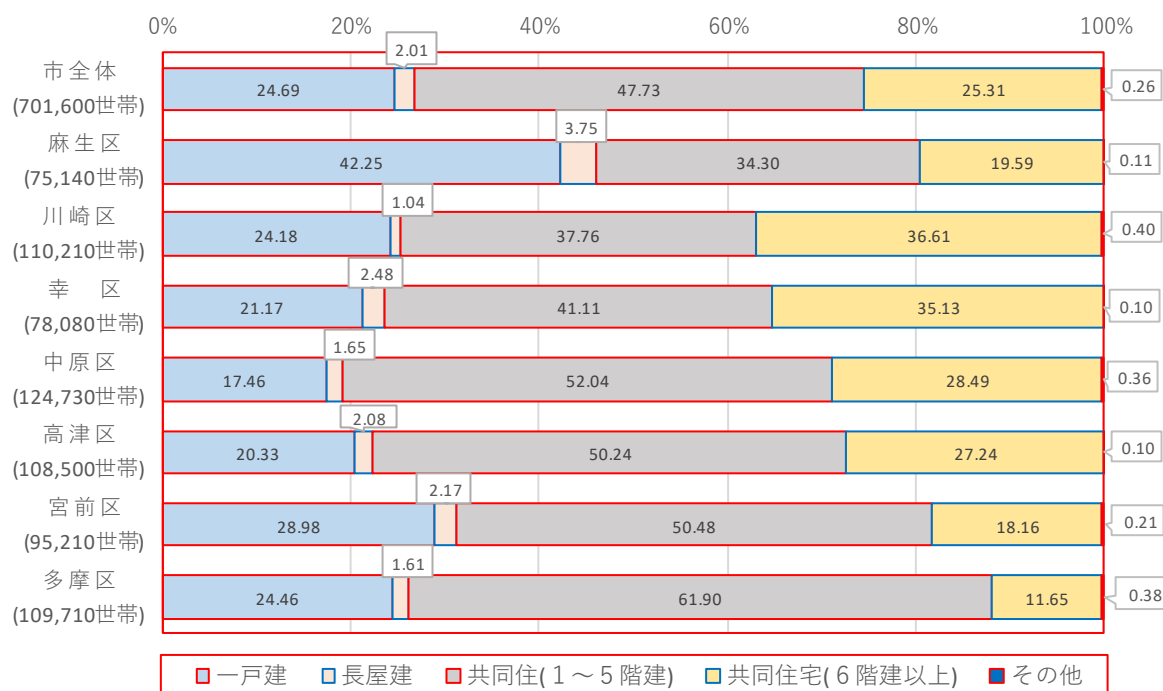
区別の住宅の建て方（4 区分）の状況（平成30年10月 1 日現在）

区 分	全 市	一戸建		長屋建		共同住宅			その他
		総数	2 階建以上	総数	2 階建以上	総数	1 ～ 5 階建	6 階建以上	
全 市	701,600	173,200	169,200	14,100	12,800	512,500	334,900	177,600	1,800
構成比%	100.00%	24.69%	24.12%	2.01%	1.82%	73.05%	47.73%	25.31%	0.26%
川崎区	110,210	26,650	25,970	1,150	980	81,970	41,620	40,350	440
構成比%	100.00%	24.18%	23.56%	1.04%	0.89%	74.38%	37.76%	36.61%	0.40%
幸区	78,080	16,530	16,280	1,940	1,790	59,530	32,100	27,430	80
構成比%	100.00%	21.17%	20.85%	2.48%	2.29%	76.24%	41.11%	35.13%	0.10%
中原区	124,730	21,780	21,280	2,060	1,910	100,440	64,910	35,530	450
構成比%	100.00%	17.46%	17.06%	1.65%	1.53%	80.53%	52.04%	28.49%	0.36%
高津区	108,500	22,060	21,630	2,260	2,150	84,070	54,510	29,560	110
構成比%	100.00%	20.33%	19.94%	2.08%	1.98%	77.48%	50.24%	27.24%	0.10%
宮前区	95,210	27,590	26,730	2,070	1,900	65,350	48,060	17,290	200
構成比%	100.00%	28.98%	28.07%	2.17%	2.00%	68.64%	50.48%	18.16%	0.21%
多摩区	109,710	26,830	26,010	1,770	1,590	80,690	67,910	12,780	420
構成比%	100.00%	24.46%	23.71%	1.61%	1.45%	73.55%	61.90%	11.65%	0.38%
麻生区	75,140	31,750	31,310	2,820	2,510	40,490	25,770	14,720	80
構成比%	100.00%	42.25%	41.67%	3.75%	3.34%	53.89%	34.30%	19.59%	0.11%

※ この結果数値は、表章単位未満の位で四捨五入しており、総数に分類不能・不詳等の数値を含んでいるため、総数と内訳の合計とは必ずしも一致しません。

※ また、結果数値は、市に関するものは100を単位とし、区に関するものは10を単位として表章しています。

区別の住宅の建て方（4 区分）の状況（平成30年10月 1 日現在）



麻生区住宅の高齢者等のための設備状況をみると、約75,000世帯のうち、半数を超える40,000世帯以上で手すりなど高齢者等のための設備を備えている。

内訳では手すりが 43.21%、またぎやすい高さの浴槽が 24.26%、廊下などが車いすで通行可能な幅があるが17.50%、段差のない屋内が26.14%、道路から玄関まで車いすで通行可能であるが14.17%の順となっている。また、年齢階級が上がるにつれて、設備を備えている世帯の構成比も上がり傾向にあります。（注 設備は1世帯で複数設置しているため、総数は100%にはならない。）

高齢者等のための設備状況、世帯内の最高齢者の年齢階級(5区分)別主世帯数

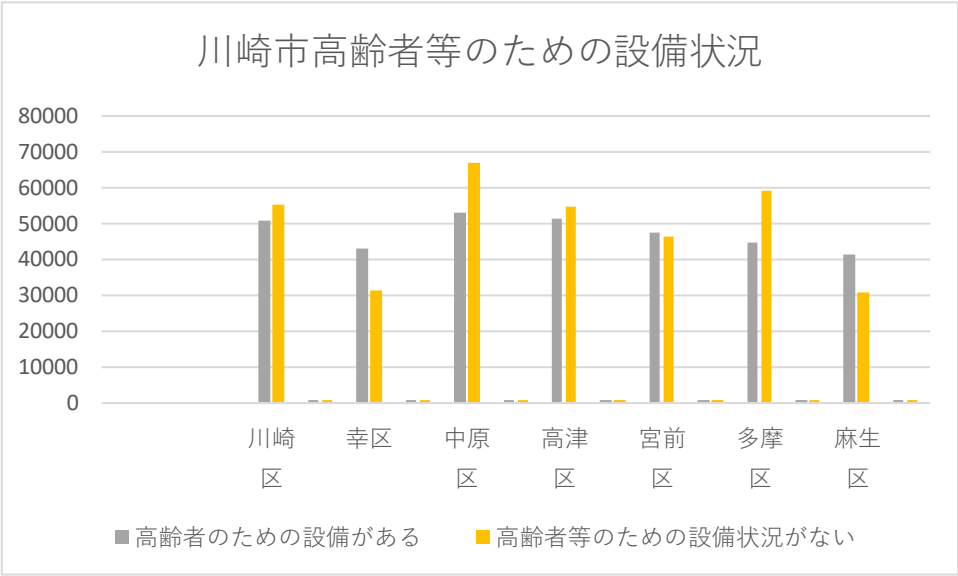
世帯内の最高齢者の年齢階級(5区分)	総数	高 齢 者 等 の た め の 設 備 状 況 1)						高齢者等のための設備状況がない	
		高 齢 者 等 の た め の 設 備 が あ る							
		総数	手すりがある	またぎやすい高さの浴槽	廊下などが車いすで通行可能な幅	段差のない屋内	道路から玄関まで車いすで通行可能		
		全市							
主 世 帯 総 数 2 )	701,600	331,700	241,500	135,900	121,400	163,700	121,500	344,300	
45 歳 未 満	230,700	90,000	59,300	28,000	26,300	43,000	29,700	140,700	
45 ～ 54 歳	129,400	67,800	48,100	29,400	26,700	39,400	28,300	61,600	
55 ～ 64 歳	96,200	48,600	34,800	20,600	18,500	26,000	19,000	47,600	
65 ～ 74 歳	102,000	55,400	41,800	26,800	22,700	25,600	19,800	46,600	
75 歳 以 上	106,300	65,300	54,400	28,700	24,700	27,400	22,300	40,900	
		麻生区							
主 世 帯 総 数 2 )	75,140	41,400	32,470	18,230	13,150	19,640	10,650	30,840	
45 歳 未 満	17,140	7,660	5,760	2,320	1,900	2,900	1,760	9,480	
45 ～ 54 歳	13,990	8,020	6,470	3,400	2,350	4,410	2,350	5,970	
55 ～ 64 歳	12,930	7,300	5,380	3,120	2,420	4,280	2,230	5,630	
65 ～ 74 歳	12,110	7,390	5,840	3,990	2,930	3,390	2,010	4,720	
75 歳 以 上	15,660	10,870	8,860	5,320	3,490	4,560	2,210	4,790	

1) 高齢者等のための設備状況「不詳」を含む。

(平成 30 年 10 月 1 日現在)

2) 世帯内の最高齢者の年齢階級「不詳」を含む。

次のグラフは7区における高齢者等のための設備状況を表したものです。設備のある世帯とな  
い世帯を比べると、川崎区、中原区、高津区、多摩区は、高齢者等のための設備がある世帯が  
少なく、幸区、宮前区、麻生区は、ある世帯の方が、やや多くなっている。



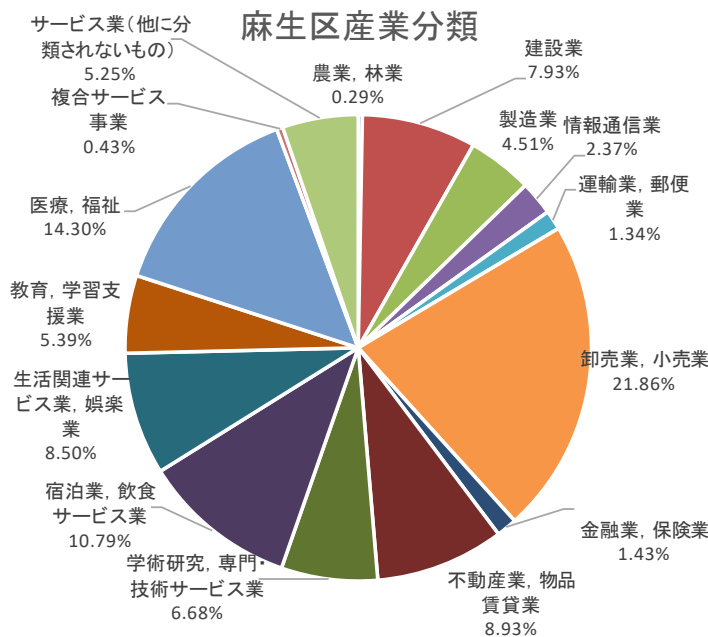


## 1 7 麻生区の産業分類

麻生区の産業分類別事業所数で、最も多いのは、卸売業、小売業の21.86%、つづいて医療、福祉の14.30%、宿泊業、飲食サービス業の10.79%の順になっている。

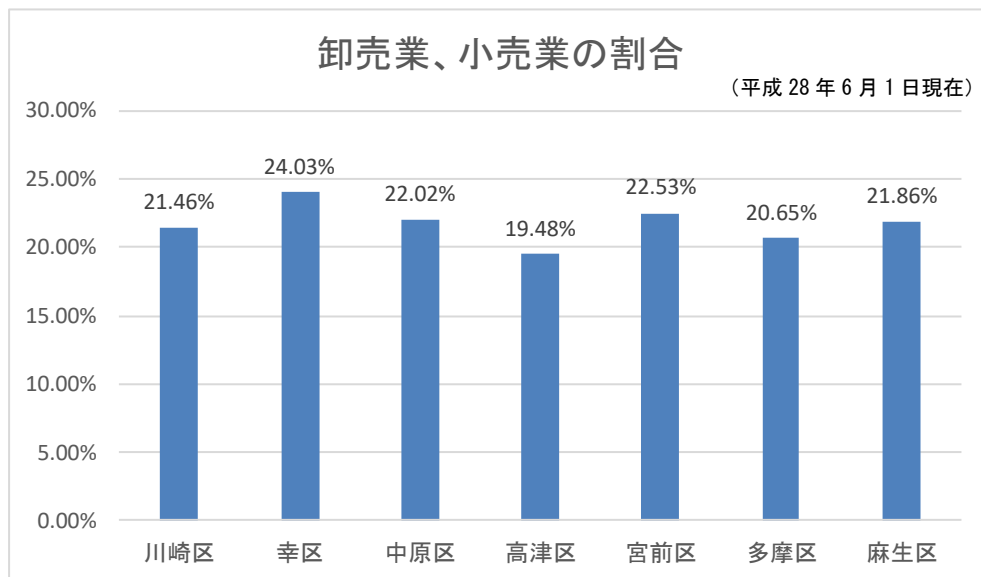
麻生区産業分類表

(平成 28 年 6 月 1 日現在)



麻生区産業分類表	事業所数
農業、林業	10
建設業	278
製造業	158
情報通信業	83
運輸業、郵便業	47
卸売業、小売業	766
金融業、保険業	50
不動産業、物品賃貸業	313
学術研究、専門・技術サービス業	234
宿泊業、飲食サービス業	378
生活関連サービス業、娯楽業	298
教育、学習支援業	189
医療、福祉	501
複合サービス事業	15
サービス業(他に分類されないもの)	184

下のグラフは麻生区産業分類で最も割合の多かった卸売業、小売業の7区の構成比を表したものです。最も高いのは幸区の24.03%、次いで宮前区の22.53%、麻生区は21.86%で4番目となっている。7区ともに、産業分類別事業所数で卸売業、小売業の占める割合は多くなっている。



(平成 28 年 6 月 1 日現在)

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
	事業所数	事業所数	事業所数	事業所数	事業所数	事業所数	事業所数
卸売業、小売業	2,326	1,103	1,553	1,150	942	1,004	766
事業所総数	10,839	4,590	7,053	5,905	4,181	4,862	3,504
構成比	21.46%	24.03%	22.02%	19.48%	22.53%	20.65%	21.86%



## 1 8 産業別の従業員数（男女）

本市の男女別の産業分類表をみると、建設業、製造業、情報通信業、運輸業・郵便業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門・技術サービス業は男性の従業者数が多いのに対し、医療・福祉は女性の従業者数が多くなっている。また卸売業・小売業は、川崎区、幸区、中原区、高津区は男性の従業者数が多く、宮前区、多摩区、麻生区は女性の従業者数が多い。

また、全産業の従業者数の合計を男女別にみると、川崎区、幸区、中原区は男性の従業者数が多くなっているが、宮前区、麻生区は女性の従業者数が多くなっている。

### 区別の産業別従業員数（男女）

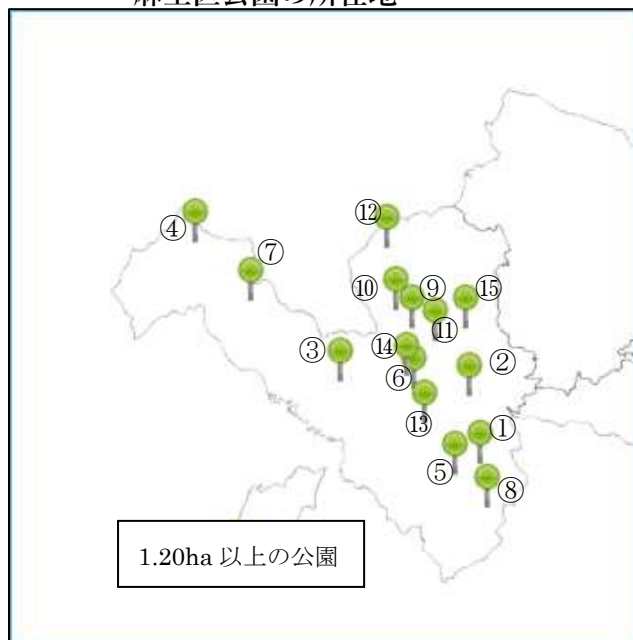
（平成 28 年 6 月 1 日現在）

産業大分類	川崎区		幸区		中原区		高津区	
	男	女	男	女	男	女	男	女
<b>A～R 全産業（S公務を除く）</b>	<b>106,009</b>	<b>54,552</b>	<b>53,503</b>	<b>28,377</b>	<b>59,575</b>	<b>38,303</b>	<b>37,234</b>	<b>30,862</b>
A 農業、林業	79	83	117	24	26	10	63	14
B 漁業	0	0	0	0	0	0	0	0
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0	0	0	0	0	0	0
D 建設業	9,083	1,375	4,203	597	2,548	556	3,589	791
E 製造業	23,276	4,268	9,677	2,215	10,039	2,348	5,669	3,036
F 電気・ガス・熱供給・水道業	778	275	189	24	14	1	272	37
G 情報通信業	5,502	1,011	8,373	1,796	13,252	2,658	2,358	569
H 運輸業、郵便業	17,561	3,427	1,988	392	3,174	1,096	2,834	736
I 卸売業、小売業	11,674	10,611	8,451	7,685	10,254	8,902	7,266	6,503
J 金融業、保険業	1,400	1,861	483	546	508	867	271	660
K 不動産業、物品賃貸業	2,330	1,230	730	575	1,708	1,352	1,707	1,313
L 学術研究、専門・技術サービス業	5,941	2,032	10,540	1,613	4,316	1,036	2,621	1,023
M 宿泊業、飲食サービス業	6,432	8,514	2,305	3,297	4,772	6,152	3,050	3,678
N 生活関連サービス業、娯楽業	2,640	2,880	1,283	1,423	1,515	1,851	1,204	1,422
O 教育、学習支援業	1,561	1,761	371	583	1,130	1,475	1,589	1,718
P 医療、福祉	4,107	9,066	2,251	5,556	3,081	8,233	2,555	7,022
Q 複合サービス事業	1,189	405	72	84	109	129	103	146
R サービス業（他に分類されないもの）	12,456	5,753	2,470	1,967	3,129	1,637	2,083	2,194

産業大分類	宮前区		多摩区		麻生区	
	男	女	男	女	男	女
<b>A～R 全産業（S公務を除く）</b>	<b>21,890</b>	<b>23,853</b>	<b>22,911</b>	<b>22,735</b>	<b>19,279</b>	<b>21,957</b>
A 農業、林業	41	24	74	16	59	20
B 漁業	0	0	0	0	0	0
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0	0	0	0	0
D 建設業	2,520	593	2,175	501	1,401	359
E 製造業	1,425	969	1,368	719	2,488	855
F 電気・ガス・熱供給・水道業	9	0	27	0	0	0
G 情報通信業	607	157	813	188	801	268
H 運輸業、郵便業	2,081	500	1,391	271	908	154
I 卸売業、小売業	5,681	5,748	4,266	4,774	3,525	4,839
J 金融業、保険業	197	420	234	500	296	600
K 不動産業、物品賃貸業	836	805	1,045	832	752	513
L 学術研究、専門・技術サービス業	343	274	854	397	1,275	631
M 宿泊業、飲食サービス業	1,856	2,664	2,969	3,445	1,686	2,571
N 生活関連サービス業、娯楽業	898	990	1,030	1,217	758	1,083
O 教育、学習支援業	1,472	1,548	2,499	2,223	1,512	1,822
P 医療、福祉	2,519	8,000	2,150	6,438	2,552	7,318
Q 複合サービス事業	295	238	94	114	324	222
R サービス業（他に分類されないもの）	1,110	923	1,922	1,100	942	702

## 19 麻生区の公園

麻生区公園の所在地



麻生区公園

	公園名称	所在地
①	王禅寺ふるさと公園 (旧 川崎市制60周年記念総合公園)	王禅寺 5 2 8 - 1
②	王禅寺公園	王禅寺西 3 丁目 2 8 - 1
③	片平公園	片平 5 丁目 2 7 - 1
④	黒川谷ツ公園	はるひ野 5 丁目 9
⑤	化粧面谷公園	王禅寺東 5 丁目 4 2 - 1
⑥	鶴亀松公園	上麻生 4 丁目 2 - 1
⑦	とんびいけ公園	栗木台 3 丁目 1
⑧	虹ヶ丘公園	虹ヶ丘 1 丁目 2 1 - 1
⑨	万福寺おやしろ公園	万福寺 3 丁目 3
⑩	万福寺さとやま公園	万福寺 5 丁目 1 9 - 1
⑪	万福寺檜山公園	万福寺 2 丁目 2 2 - 1
⑫	向原の森公園	向原 3 丁目 2 - 5
⑬	むじなが池公園	白山 4 丁目 6
⑭	山口白山公園	上麻生 3 丁目 5 - 1
⑮	百合丘第 3 公園	百合丘 1 丁目 1 1 - 2

麻生区には大小 3 2 1 の公園があり、川崎市 7 区の中では最も多くなっている。上の表は、麻生区で面積が 1.20ha 以上の公園となっており、その中では王禅寺ふるさと公園が、104,676㎡と最も広大であり、川崎市内でみると、多摩区の生田緑地が最も広く、862,590㎡となっている。

川崎市公園数

川崎市公園数	
川崎区	147
幸区	98
中原区	101
高津区	152
宮前区	213
多摩区	145
麻生区	321

区別の一番広い公園と面積 (㎡)

区内で一番広い公園	面積
富士見公園 (川崎区)	170,486
夢見ヶ崎公園 (幸区)	65,228
等々力緑地 (中原区)	435,914
多摩川緑地瀬田地区 (高津区)	73,112
生田緑地 (宮前区)	313,394
生田緑地 (多摩区)	862,590
王禅寺ふるさと公園 (麻生区)	104,676

麻生区基礎データ

項 目	データ	単位	調査期日
人口			
世帯数	80,072	世帯	令和3年4月1日
人口	181,043	人	令和3年4月1日
男性	87,432	人	令和3年4月1日
女性	93,611	人	令和3年4月1日
性比（女性＝100）	93.4	%	令和3年4月1日
平均年齢	45.3	歳	令和元年10月1日
15歳未満人口割合	12.9	%	令和元年10月1日
15～64歳人口割合	63.4	%	令和元年10月1日
65歳以上割合	23.6	%	令和元年10月1日
外国人住民人口	2,997	人	令和3年3月末日
昼間人口	137,459	人	平成27年10月1日
昼夜間人口比率	78.3		平成27年10月1日
人口動態			
出生	1,279	人	令和2年
死亡	1,405	人	令和2年
転入	10,443	人	令和2年
転出	9,511	人	令和2年
事業所（民営）			
事業所数	3,504	事業所	平成28年6月1日
従業者数	41,337	人	平成28年6月1日
農業			
販売農家戸数	135	戸	令和2年2月1日
自給の農家戸数	141	戸	令和2年2月1日
工業			
事業所数	60	事業所	令和元年6月1日
従業者数	2,720	人	令和元年6月1日
製造品出荷額等	47,478	百万円	令和元年6月1日
付加価値額	22,991	百万円	令和元年6月1日
商業			
卸売業	事業所数 94	事業所	平成28年6月1日
	従業者数 630	人	平成28年6月1日
	年間商品販売額 22,727	百万円	平成28年6月1日
小売業	事業所数 500	事業所	平成28年6月1日
	従業者数 6,163	人	平成28年6月1日
	年間商品販売額 128,067	百万円	平成28年6月1日
教育			
幼稚園	園数 8	園	令和2年5月1日
	園児数 1,926	人	令和2年5月1日
認可保育所	施設数 33	園	令和2年4月1日
	児童数 2,614	人	令和2年4月1日
小学校	学校数 17	校	令和2年5月1日
	児童数 10,082	人	令和2年5月1日
中学校	学校数 9	校	令和2年5月1日
	生徒数 4,944	人	令和2年5月1日
治安・災害			
交通事故発生件数	349	件	令和元年
刑法犯認知件数＊	465	件	令和元年
火災発生件数＊＊	27	件	令和元年

＊麻生警察署管内における件数

＊＊麻生消防署管内における件数

発行日 2022年3月22日  
発 行 麻生区役所まちづくり推進部総務課  
電 話 044（965）5109  
Mail [73soumu@city.kawasaki.jp](mailto:73soumu@city.kawasaki.jp)